



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Helion CloudSystem 10.0

ESXi インストールガイド

ESXi 管理ハイパーバイザー用

このガイドについて

このガイドの情報は、コンピュータリソースを展開に向けて構成およびプロビジョニングし、仮想データセンターで使用することを担当する、**HPE Helion CloudSystem ソフトウェアバージョン 10.0** を使用する管理者を対象にしています。

部品番号: 5200-0289
2016 年 9 月
第 1 版

© Copyright 2014, 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft® および Windows® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Red Hat® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

VMware® vCenter™ および VMware vSphere® は、VMware, Inc. の米国および各国での登録商標です。

目次

I HPE Helion CloudSystem 10.0 ESXi のインストールの概要	6
1 対象読者	7
2 はじめる前に	8
II ESXi 環境のインストール	9
3 ESXi のインストールの概要	10
4 ESXi 管理ハイパーバイザーの構成	11
プロセスの概要	11
インストールの必要条件	11
オペレーティングシステムのインストール	12
サーバーにアクセスできるネットワークの構成	12
ESXi 管理ハイパーバイザー上でのネットワークインターフェイスの設定	13
vCenter での ESXi 管理クラスターの作成	13
管理クラスターの構成と ESXi ハイパーバイザーの追加	13
インストールイメージおよびツールのダウンロードと準備	15
5 展開プラットフォームの準備	16
Deployer 仮想アプライアンスの作成	16
vCenter OVF ツールパッケージのインストール	19
Helion CloudSystem Enterprise の準備	19
6 インストール用 UI からのクラウドの展開	21
7 CLI からのクラウドの展開	28
Helion CloudSystem のインストール構成ファイル	28
インストール構成ファイルの構成	29
インストール構成ファイルの検証	36
Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開	37
アフィニティルールの変更	39
8 展開後の Helion CloudSystem インストール用 UI のシャットダウン	40
9 展開失敗後のエラーの解決およびクリーンアップ	41
展開エラーの解決	41
展開失敗後の環境のリセット	41
10 Helion CloudSystem 仮想アプライアンスへのアクセス	42
アプライアンスポータル	42
Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの識別	44
A 付録	48
標準 vSwitch から分散型 vSwitch への移行	48
B Octavia ロードバランサーのインストール	49
Octavia ロードバランサーのインストール	49
C Foundation のみの展開への Enterprise の追加	52
D Helion CloudSystem Enterprise アプライアンスの、FQDN によるサービスエンドポイントの変更	54
E サポートと他のリソース	56
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス	56
ソフトウェアテクニカルサポートおよびアップデートサービス	56
ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスへの登録	56
ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスの使用方法	56

コンサルティングおよびインストールサービス.....	57
HPE Datacenter Care for Cloud.....	57
セキュリティ管理.....	57
ディスカッションへの参加.....	57
アップデートへのアクセス.....	57
Web サイト.....	58
参考ドキュメント.....	58
HPE Helion CloudSystem のドキュメント.....	58
HPE Helion OpenStack のドキュメント.....	59
HPE Insight Management ドキュメント.....	59
サードパーティのドキュメント.....	59
HPE 3PAR StoreServ のドキュメント.....	60
HPE StoreVirtual VSA のドキュメント.....	60
HPE ProLiant サーバーのドキュメント.....	60
カスタマーセルフリペア.....	60
リモートサポート（HPE 通報サービス）.....	60

図一覧

1	Helion CloudSystem のインストール前の vCenter ネットワークの VSS 構成のサンプル.....	17
2	Helion CloudSystem のインストール前の vCenter ネットワークの VDS 構成のサンプル.....	17
3	Helion CloudSystem の展開後の vCenter での VSS のサンプル.....	38
4	Helion CloudSystem の展開後の vCenter での VDS のサンプル.....	39

表一覧

1	cs-setup-esx.yml 構成ファイルのフィールド.....	17
2	インストール用 UI のフィールド.....	21
3	インストール構成ファイルのフィールド.....	30
4	Deployer への IP アドレスの割り当て.....	44
5	管理アプライアンスへの IP アドレスの割り当て.....	44
6	監視アプライアンスへの IP アドレスの割り当て.....	45
7	データベースアプライアンスへの IP アドレスの割り当て.....	45
8	Foundation アプライアンスへの IP アドレスの割り当て.....	46
9	Enterprise アプライアンスへの IP アドレスの割り当て.....	46
10	VIP アドレスの割り当て.....	47
11	neutron_config.yml ファイルのフィールド.....	49

手順一覧

1	サポートされている ESXi オペレーティングシステムのインストール（基本インストール）.....	12
2	iLO での Management Network の初回の構成.....	13
3	クラスターの構成と管理ハイパーバイザーの追加.....	14
4	Deployer 仮想アプライアンスの作成.....	16
5	vCenter OVF ツールパッケージのインストール.....	19
6	Enterprise の展開の準備.....	20
7	構成ファイル内の MySQL JDBC ドライバー名のアップデート.....	20
8	インストール構成ファイルの構成.....	29
9	Helion CloudSystem のインストール構成ファイルの検証.....	36
10	Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開.....	37
11	インストール用 UI のシャットダウン.....	40
12	障害が発生したすべての展開ジョブおよびタスクの表示.....	41
13	展開失敗後の環境のリセット.....	41
14	VSS の DVS への移行.....	48
15	Octavia ロードバランサーのインストール.....	49
16	Helion CloudSystem Foundation の展開後の Enterprise アプライアンスのインストール.....	52
17	プロバイダーの追加.....	52
18	Enterprise アプライアンスの VIP アドレスの、FQDN への置き換え.....	54

パート I HPE Helion CloudSystem 10.0 ESXi のインストールの概要

1 対象読者

本書は、以下の概念について実用的な知識を持つ経験豊富なシステム管理者を対象としています。

- ネットワーク用 ToR (Top of Rack) スイッチ
- Windows および Linux の CLI コマンド
- VMware vCenter の機能
- セキュアシェル (ssh) およびセキュアコピー (scp) コマンド

OpenStack の CLI と API を使用してコマンド行からいくつかのクラウドリソースを管理しようと考えている場合、Nova、Glance、Cinder、Keystone、Neutron などの OpenStack テクノロジーに関する経験が役に立ちます。

2 は始める前に

HPE Helion CloudSystem は、柔軟なクラウドインストールを提供する、堅牢な製品です。インストールを開始する前に、サポートされているハードウェア、ソフトウェア、およびツールだけではなく、ビルドに関する既知の問題およびリソース要件について理解していることを確認してください。

以下のドキュメントは、[Enterprise Information Library](#) で入手できます。

- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 リリースノート』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』

ネットワークインフラストラクチャのカスタマイズ

このインストールガイドは、ネットワーク構成での、Helion CloudSystem のベストプラクティスに基づいて記載されています。ネットワーク構成をカスタマイズするには、個々のネットワークの詳細を『HPE Helion CloudSystem 10.0 ネットワークプランニングガイド』で参照し、ネットワークインフラストラクチャ全体でのネットワークの柔軟性についての詳細を理解してください。ネットワークについてカスタマイズした選択内容は、インストール中にインストール構成ファイルに適用します。

詳細は、[Enterprise Information Library](#) にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 ネットワークプランニングガイド』を参照してください。

コマンドのテキストファイルの使用

この PDF には、`cs10_esx_commands.txt` ファイルが添付されています。このファイルには、このガイドに記載されている手順で使用されるすべてのコマンドが含まれています。これらのコマンドをテキストファイルからコピーし、コマンド行に直接ペーストすることができます。

このテキストファイルを表示するには、PDF の左側にあるペーパークリップのアイコンをクリックしてください。

パート II ESXi 環境のインストール

3 ESXi のインストールの概要

Helion CloudSystem を ESXi ハイパーバイザーに展開する場合、インストール手順は以下の主なステップからなります。

- **ESXi 管理ハイパーバイザーの準備**

ハイパーバイザーをセットアップし、管理クラスターを vCenter に作成します。

[ESXi 管理ハイパーバイザーの構成 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

- **展開プラットフォームの準備**

Deployer 仮想アプライアンスを構成し、CONF ネットワークに接続します。Deployer 仮想アプライアンスおよび CONF の詳細を取得するために使用される構成ファイルは、`cs-setup-esx.yml` ファイルです。

[展開プラットフォームの準備 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

- **Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開**

インストール用 UI または CLI を使用して、仮想アプライアンスの残りを展開します。クラウドの詳細を取得するために使用される構成ファイルは、`cs-install-options.yml` ファイルです。

[インストール用 UI からのクラウドの展開 \(21 ページ\)](#) または [CLI からのクラウドの展開 \(28 ページ\)](#) を参照してください。

4 ESXi 管理ハイパーバイザーの構成

プロセスの概要

- [インストールの必要条件 \(11 ページ\)](#)
- [オペレーティングシステムのインストール \(12 ページ\)](#)
- [サーバーにアクセスできるネットワークの構成 \(12 ページ\)](#)
- [ESXi 管理ハイパーバイザー上でのネットワークインターフェイスの設定 \(13 ページ\)](#)
- [vCenter での ESXi 管理クラスターの作成 \(13 ページ\)](#)
- [インストールイメージおよびツールのダウンロードと準備 \(15 ページ\)](#)

Helion CloudSystem は、以下の 3 つの HA 構成をサポートしています。

- **物理 HA と仮想 HA** : ホストが 3 つの管理クラスター (推奨)
Helion CloudSystem 仮想アプライアンスが 3 つ 1 組で展開され、3 つの物理サーバーに分散されます。この構成は、可用性とパフォーマンス性が高いため、安定性が求められる本番稼働に適しています。
- **仮想 HA** : ホストが 1 つの管理クラスター
Helion CloudSystem 仮想アプライアンスが 3 つ 1 組で、1 つの物理サーバーに展開されます。この構成は、物理的な高可用性が必要とされない小規模な開発、テスト、または本番環境に対応できます。展開完了後に 3 ホストの HA への拡張が必要になった場合は、HPE サポートまでご連絡ください。

注記: Helion CloudSystem を 1 つのホストにインストールし、後で管理クラスターにホストを追加することができます。 [Enterprise Information Library](#) にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 管理者ガイド』の「[管理ハイパーバイザークラスターの管理](#)」の章を参照してください。

- **非 HA** : ホストが 1 つの管理クラスター
7 つのシングルton仮想アプライアンスが、1 つの物理サーバーに展開されます。後で HA 構成に拡張することはできません。

仮想アプライアンスのリソース要件については、[Enterprise Information Library](#) にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』を参照してください。

インストールの必要条件

インストールを開始する前に、必要条件である以下の手順が環境で完了していることを確認してください。

必要条件

- ESXi ISO が、VMware の Web サイトからダウンロードされていること。
ダウンロードは、<https://my.vmware.com/en/web/vmware/downloads> から入手できます。
- HPE ハードウェアを使用していて、カスタマイズされたイメージが必要な場合は、サポートされている ESXi オペレーティングシステムで物理サーバーが構成されていること。
サポートされているバージョンの ESXi の、HPE 向けにカスタマイズされたイメージは、[HPE ProLiant servers with VMware](#) の Web サイトから入手できます。
サポートされている ESXi オペレーティングシステムのバージョンのリストについては、[Enterprise Information Library](#) にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』を参照してください。

- サーバーのネットワークおよびストレージの構成を理解しておくこと。
- **Enterprise Information Library** にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』の「**仮想アプライアンスのリソース要件**」セクションで概要が説明されている、ストレージの要件を満たす大きなディスクがサーバーに提示されていること。
管理ホストがマルチパス構成の場合、各ホストのデバイスパスポリシーに**ラウンドロビン**を設定すること。「**Modifying path information for ESXi/ESX hosts**」を参照してください。

オペレーティングシステムのインストール

管理クラスター内の各管理ハイパーバイザーに、サポートされているバージョンの ESXi オペレーティングシステムをインストールします。

サポートされているオペレーティングシステムの一覧については、**Enterprise Information Library** にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』を参照してください。

手順 1 サポートされている ESXi オペレーティングシステムのインストール（基本インストール）

1. ESXi 管理ハイパーバイザーブレードの iLO IP アドレスを使用して、リモートコンソールにログインします。
2. ISO イメージをマウントします。
3. ブレードの電源を入れます。
4. 以下の構成を設定します。
 - タイムゾーン
 - 言語
 - ホスト名
 - ローカルインストールドライブの選択

注記: ブートストレージについては、オペレーティングシステムの推奨事項に従ってください。

サーバーにアクセスできるネットワークの構成

物理サーバーに至るネットワークインフラストラクチャでは、3つのトランク（管理トランク、データトランク、およびストレージトランク）を構成してください。

管理トランク

管理トランクは、コントロールプレーンネットワークにより成り立っています。コントロールプレーンネットワークには、以下のものが含まれます。

- CONF ネットワーク
このタグなしネットワークは、vCenter と通信できる必要があります。
インストール構成ファイルまたはインストール用 UI で、チーミングされた NIC（ボンディング）を CONF ネットワーク上に定義する場合は、Helion CloudSystem を展開する前に、すべてのインターフェイスを、vCenter 内のホスト vSwitch に手動で追加してください。
- Data Center Management Network
- Cloud Management Network
- Consumer Access Network
このネットワークを使用すると、クラウドユーザーは、アプライアンスコンソールに public アクセスすることができます。このネットワークをコントロールプレーンに含めなかった場合は、Data Center Management Network が public と admin アクセスを提供します。

- External ネットワーク
このネットワークはオプションです。クラウド環境に Helion CloudSystem Foundation が含まれていて、フローティング IP アドレスが必要な場合は、External ネットワークを追加してください。

データトランク

Tunnel Underlay Network または VLAN Data Trunk が、クラウドのデータ要件をサポートします。クラウド環境内に Tunnel Underlay Network を 1 つと、VLAN Data Trunk を複数持つことができます。各データネットワークを別のトランクに置くことが、ベストプラクティスです。

ストレージトランク

ストレージトランクには、クラウド環境のコンピュートストレージ要件をサポートするために必要な、すべてのストレージネットワークが含まれています。すべてのストレージネットワークを、1 つのストレージトランクに追加することができます。

ESXi 管理ハイパーバイザー上でのネットワークインターフェイスの設定

vCenter が ESXi 管理ハイパーバイザーの管理に使用する Management Network を構成します。

手順 2 iLO での Management Network の初回の構成

1. ESXi 管理ハイパーバイザーブレードの iLO アドレスを使用して、iLO リモートコンソールにログインします。
 2. **F2** を押します。
 3. **[Configure Management Network]** を選択します。
 4. **[VLAN]** セクションで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - ホストが個別の CONF IP アドレスを持つようにするには、**[VLAN]** の値を空のままにし、タグなしのネットワークを示します。
 - その他のネットワークを使用する場合は、そのネットワークの VLAN ID を設定します。
-
- ① **重要:** vCenter が構成されるネットワークは、ESXi ホストで構成されたネットワークと通信できる必要があります。
-
5. Management Network の IP アドレスを構成します。
CONF と Management Network を組み合わせた場合、IP アドレスは、CONF ネットワークに予約されている範囲外になることがあります。
 6. ネットワークを保存して、再起動します。
 7. ネットワークが正しく構成されていることを確認するには、IP アドレスに ping を送信します。
 8. 管理クラスターに含める各管理ハイパーバイザーごとに、この手順を繰り返します。

vCenter での ESXi 管理クラスターの作成

管理クラスターの構成と ESXi ハイパーバイザーの追加

必要条件

- vCenter にログインする管理者権限を持っていること。
- 1 つの大きなデータストアが作成されていること。
3 つの管理ホストがクラスター内に構成されている場合は、すべてのホストがボリュームを共有します。

ストレージ要件は、計画しているインストールのタイプにより異なります。**Enterprise Information Library**にある『HP Helion CloudSystem10.0 サポートマトリックス』の「**管理ハイパーバイザーのハードウェア要件**」の表を参照してください。

- vCenter 名にスペースが含まれていないこと。
- 複数のホストのクラスターリソースを管理するように DRS が vCenter で有効化されていて、DRS は VMware のベストプラクティスに従って構成されていること。
- クラスター内のすべてのハイパーバイザーが、整合性のある状態で構成されていて、NIC に同じ速度、ネットワーク構成、および命名規則が設定されていること。

手順 3 クラスターの構成と管理ハイパーバイザーの追加

1. 管理者のユーザー名とパスワードで vCenter にログインします。

注記: vCenter パスワードでサポートされていない文字を使用しないでください。**VMware Knowledge Base** にサポートされていない文字の一覧があります。

ローカル管理者アカウント（ドメインの管理者アカウントではない）を使用してください。

2. Helion CloudSystem をサポートしているデータセンターで、管理クラスターを作成します。

注記: 文字 “/” は、クラスター名またはデータセンター名には使用できません。

3. クラスターにホストを追加します。
 - a. クラスター上で右クリックして、**[ホストの追加]**を選択します。
 - b. 前のセクションで構成した ESXi ハイパーバイザーの IP アドレスまたは FQDN を入力します。
 - c. 認証情報を入力します。
 - d. すべてのオプションをデフォルトにします。
 - e. すべてのホストが追加されるまで繰り返します。
4. クラスターに追加されたホストごとに、最低でも以下のネットワーク要素が構成されていることを確認します。
 - CONF ネットワークが、vCenter Management Network と同じトランクにあり、vCenter と通信できる。
 - デフォルトの **vNetwork Standard Switch (vSS)** を使用している場合は、以下のものがある。
 - タグなしの VM Network。
 - vMotion。
 - vCenter Management Network。
([ESXi 管理ハイパーバイザー上でのネットワークインターフェイスの設定 \(13 ページ\)](#) を参照してください)
 - **vNetwork Distributed Switch (vDS)** を使用している場合は、以下の処理を行っている。
 - デフォルトの vSS を vDS に移行した。
[標準 vSwitch から分散型 vSwitch への移行 \(48 ページ\)](#) を参照してください。
 - 以下の 2 つのいずれかの方法で、CONF ネットワークと vCenter Management Network の関係を確立した。

方法 1 — CONF ネットワークを vCenter Management Network と分離する

- vDS を作成し、デフォルトの dvPortGroup を vCenter Management Network (タグ付き) に割り当てる。
- CONF ネットワーク (タグなし) 用に 2 つ目の dvPortGroup を作成する。

方法 2 — CONF ネットワークと vCenter Management Network を同じにする

- デフォルトの dvPortGroup (タグなし) を CONF ネットワークに使用する。

5. 外部のタイムサーバーを使用するように、クラスター内の各ホストを構成します。

Configuring Network Time Protocol (NTP) on ESX/ESXi hosts using the vSphere Client を参照してください。

- ① **重要:** すべてのホストが、Helion CloudSystem のインストール中に使用された同じ NTP サーバーを指している必要があります。

6. クラスターが正しく構成されていることを確認します。

- vMotion が、クラスター内のすべてのホストに構成されている。
- クラスター内で DRS が有効で、自動が設定されている。
- VMware EVC が、クラスター内のホストのタイプに応じて正しく構成されている。

インストールイメージおよびツールのダウンロードと準備

Helion CloudSystem リリースキットは、<http://www.hpe.com/support/softwaredepot> の Software Depot からダウンロードできます。このガイドの手順を実行するには、以下のリリースファイルが必要です。

- **HPE Helion CloudSystem Enterprise 10.0 for ESX, September 2016** : Enterprise 仮想アプライアンスの OVA イメージが含まれています。
- **HPE Helion CloudSystem Foundation 10.0 for ESX, September 2016** : Helion CloudSystem Foundation 仮想アプライアンスの OVA イメージが含まれています。
- **HPE Helion CloudSystem Tools 10.0 September 2016** : 以下のツールコンポーネントが含まれています。
 - `csstart` : Helion CloudSystem Deployer 仮想アプライアンスをインストールするコマンド行。
 - Windows OO Studio : HPE OO Studio をインストールする実行可能ファイル。
 - Octavia イメージ : ロードバランサーの作成時に使用されるイメージ。このイメージの名前は、`octavia-amphora-haproxy-guest-image.tgz` です。
- **MySQL Connector/J-JDBC driver Source, September 2016** : アップデートされた監視用ドライバーおよび Enterprise アプライアンスが含まれています。このドライバーは、Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開前に、1 つ目の管理アプライアンスにインストールする必要があります。

注記: 以下のリンクを使用して、ダウンロード後にファイルの整合性を確認してください。

- **HPE GPG or RPM Signature Verification**
- **Microsoft MD5 検証**

5 展開プラットフォームの準備

Deployer 仮想アプライアンスは、Helion CloudSystem のインストールおよび構成に使用されるアプライアンスです。

Deployer 仮想アプライアンスの作成

必要条件

- vCenter にログインする管理者権限を持っていること。
- vCenter にセキュリティ証明書があること。
vSphere で証明書を実装する手順については、「[VMware Knowledge Base](#)」を参照してください。

手順 4 Deployer 仮想アプライアンスの作成

1. VMware vSphere クライアントまたは Web ブラウザーを使用して vCenter にログインします。
2. **[インベントリ]**→**[ホストおよびクラスター]**を選択し、管理クラスターを選択します。
3. **[ファイル]**→**[OVF テンプレートのデプロイ]**を選択します。
4. 画面の指示に従います。
 - a. ステージング環境に upzip されている Deployer 仮想アプライアンスイメージ **HPE-Helion-CloudSystem-foundation-10.0.ova** を指します。vCenter で現在使用されていない一意の名前を仮想マシンに付けます。
 - b. ベストプラクティスは、**シンプロビジョニング**を選択することです。このオプションを選択すると、インストールがずっと高速になります。
5. 仮想マシンが作成されたことを確認します。マシンは、**[VMs and Templates]** ビュー下の画面の左側にリストされています。
仮想マシンを起動しないでください。
6. ネットワークアダプターを追加します。
 - a. Deployer 仮想マシンを右クリックし、**[Edit Settings]** を選択します。
 - b. **[Add new device type]** を選択し、**[Ethernet adapter]** を選択します。
 - c. デフォルトのアダプタータイプ **[VMXNET3]** を選択します。
 - d. **[Network Connection]** フィールドで、以下の方法のいずれかを実行します。
 - VSS に **[VM Network]** を選択します。
 - vDS に **[dvPortGroup]** を選択します。
このポートは、タグなしの CONF ネットワークを持つ dvPortGroup です。
 - e. **[Connect at power-on]** ボックスがチェックされていることを確認します。
 - f. **[Finish]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
7. Deployer 仮想マシンの電源を入れます。

図 1 Helion CloudSystem のインストール前の vCenter ネットワークの VSS 構成のサンプル

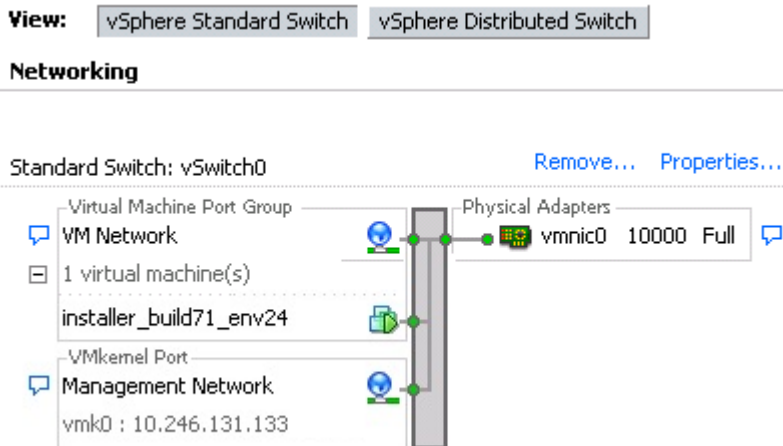
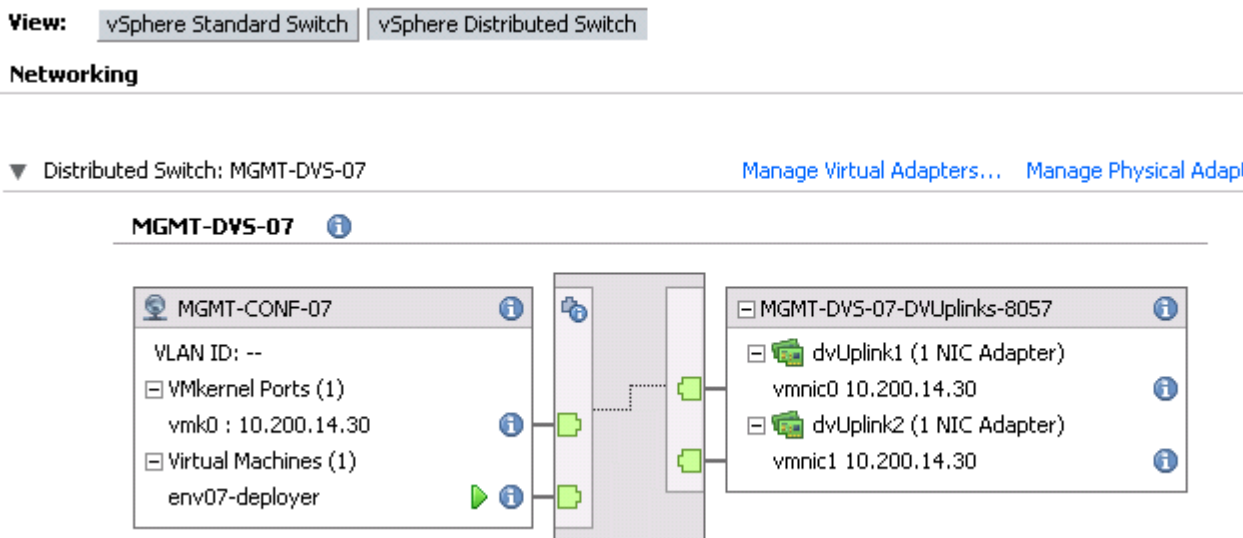


図 2 Helion CloudSystem のインストール前の vCenter ネットワークの VDS 構成のサンプル



8. Deployer 仮想マシンコンソールを開き、stack 認証情報を使用してログオンします。
stack アカウントには、stack/stack を使用します。
9. Deployer に CONF ネットワークを追加します。
 - a. cs-setup-esx.yml ファイルを編集用に開きます。
`sudo vi /etc/csdeploy/cs-setup-esx.yml`
 - b. この構成ファイルに、環境の詳細を追加します。

表 1 cs-setup-esx.yml 構成ファイルのフィールド

構成フィールド	説明
	ハイパーバイザーの詳細
host-prefix	最大 8 文字のプレフィックスを入力します。
dns-settings: nameservers:	(オプション) ホスト名を解決する DNS サーバーを追加します。 サーバーを追加するには、"- ip-address-1"に 1 つ目の DNS サー

表 1 cs-setup-esx.yml 構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
<ul style="list-style-type: none"> - ip-address-1 - ip-address-2 	<p>バーの IP アドレスを指定します。2 つ目の DNS サーバーが必要な場合は、この処理を繰り返します。</p> <p>ホスト名または FQDN でサーバーを使用する場合、FQDN でロードバランサーを使用する場合、または FQDN で vCenter を使用する場合、DNS の IP アドレスを定義する必要があります。</p>
type:	ESXi 管理ハイパーバイザーを使用していることを示す esx を入力します。
vcenter-hostname:	ESXi 管理ハイパーバイザーをホストする vCenter アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
vcenter-port	(オプション) ポート番号を入力します。
vcenter-verify-ssl	<p>ご使用の環境に適切なオプションを入力します。</p> <p>True: セキュア接続用に、vCenter に証明書がインストールされている。</p> <p>False: vCenter に証明書はインストールされていない。</p>
vcenter-username:	vCenter アプライアンスのユーザー名を入力します。ユーザー名に特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。
vcenter-password:	vCenter アプライアンスのパスワードを入力します。パスワードに特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。
vcenter-cluster-path:	<p>パスを、以下の形式で入力します。</p> <p><datacenter_name>/host/<cluster_name></p>
vcenter-datastore:	<p>データストアの名前を入力します。</p> <p>例: SanDisk:env23-mgmt</p> <p>データストア名に特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。</p>
コントロールプレーンネットワークの詳細	
<pre>--name: CONF types: -hlm members: -cidr: addresses: - gateway-ip:</pre>	<p>このセクションは、Helion Lifecycle Management Network (hlm) および PXE ネットワークの両方として機能する、必須の Cloud Configuration Network を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CIDR 値を入力します。 例: 10.254.0.0/16 • CONF には、アドレスの範囲を指定する必要があります。CONF ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる IP アドレスの範囲を入力します。1 つ目の IP アドレスは、Deployer 仮想アプライアンスのアドレスでなければなりません。 例: 10.254.xxx.xxx-10.254.xxx.xxx • (オプション) CONF ネットワーク外のルートが必要な場合は、有効なゲートウェイ IP アドレスを入力します。 <p>重要: 既存のコンピュータノードまたはインストール予定のコンピュータノードの IP アドレスは、Helion CloudSystem のインストール中、CONF/DCM に与えられる範囲外にある必要があります。</p>

c. 変更を保存します。

10. ライセンス契約をダウンロードして読みます。

```
csdeploy save-eula --path /home/stack/
```

11. `csdeploy` を実行し、ライセンス契約に同意して、CONF の IP アドレスを構成します。
`csdeploy setup --eula-accepted`

① **重要:** このコマンドの実行は、EULA に同意したことを意味します。

12. Deployer アプライアンスの準備ができたことを確認します。
CONF ネットワーク上の IP アドレスから、Deployer 仮想アプライアンスにアクセスできます。
13. vCenter および管理ホストに到達できることを確認します。
`ping <vCenter_IP>`

① **重要:** 展開中は、Helion CloudSystem の展開責任者だけが CONF ネットワークにアクセスできるようにする必要があります。

vCenter OVF ツールパッケージのインストール

OVF ツールパッケージは、ESXi 管理ハイパーバイザー上で Helion CloudSystem をサポートするために必要です。

手順 5 vCenter OVF ツールパッケージのインストール

1. VMware Open Virtualization Format (OVF) Tool for Linux-64-bit をダウンロードします。
<https://my.vmware.com/web/vmware/details?downloadGroup=OVFTOOL410&productId=490>
2. `stack` 認証情報を使用して、Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
3. `thirdparty` ディレクトリに移動します。
`cd /home/stack/stage/thirdparty`
4. VMware ツールパッケージを、Deployer 仮想マシンの `/home/stack/stage/thirdparty` フォルダにコピーします。
5. `thirdparty.conf` ファイルを開き、`ovftool_installer` が、`home/stack/stage/thirdparty` フォルダに追加されたパッケージを参照していることを確認します。
6. ファイルを実行可能形式にします。
`chmod +x <VMware_bundle_name>`
7. ファイルの所有者を変更します。
`chown stack:stack <VMware_bundle_name>`

Helion CloudSystem Enterprise の準備

Helion CloudSystem Enterprise では、展開前に、さらに 2 つの必要条件があります。

- MySQL JDBC ドライバーがダウンロードされ、イメージが Deployer 仮想アプライアンスにコピーされていること。このドライバーは、<http://www.hpe.com/support/softwaredepot> の HPE Software Depot にある **MySQL Connector/J-JDBC driver Sept 2016** キットから入手できます ("Helion CloudSystem Software" で検索してください)。

Helion CloudSystem がプリインストールされている場合や、技術サービスの業者とインストールのサポート契約を結んでいる場合でも、**お客様がこのパッケージをダウンロードする必要があります。**

- **HPE-Helion-CloudSystem-enterprise-10.0.ova** を、Deployer 仮想アプライアンスのイメージディレクトリに追加すること。

手順 6 Enterprise の展開の準備

1. Enterprise リリースパッケージをダウンロードします。
2. リリースされたパッケージを unzip し、
HPE-Helion-CloudSystem-enterprise-10.0.ova イメージをローカルマシンに保存します。
3. イメージの名前をenterprise.ova に変更し、Deployer 仮想アプライアンス上の/home/stack/helion/images フォルダにコピーします。
4. **MySQL Connector/J-JDBC driver Sept 2016** リリースパッケージをダウンロードします。
5. libmysql-java_5.1.32-1_all.deb を unzip し、ローカルマシンに保存します。
6. このファイルを、Deployer 仮想アプライアンス上の/home/stack/stage/thirdparty フォルダにコピーします。

手順 7 構成ファイル内の MySQL JDBC ドライバー名のアップデート

MySQL JDBC ドライバー名は、thirdparty.conf ファイルにリストされている名前と一致する必要があります。このドライバー名を変更した場合は、thirdparty.conf ファイル中の名前を変更してください。

1. Deployer アプライアンスから、thirdparty.conf ファイルを開きます。

```
sudo vi /home/stack/stage/thirdparty/thirdparty.conf
```
2. lib_mysql_java_file_name の値を、MySQL JDBC ドライバーのファイル名に一致するように変更します。
3. 変更を保存します。

6 インストール用 UI からのクラウドの展開

Deployer 仮想アプライアンスを展開すると、インストール用 UI は、URL `http://<deployer-ip>:3000` からアクセスできるようになります。

UI によるインストールの注意事項

- 仮想アプライアンスのメモリにカスタムサイズを定義する必要がある場合、または複数のバージョンの Helion CloudSystem をインストールし、仮想ルーター ID を構成する場合は、CLI から展開する必要があります。
- コントロールプレーンの要件をサポートするには、hlm (CONF)、admin (Data Center Management Network)、internal (Cloud Management Network)、および public (Consumer Access Network) 用の 1 つのネットワークを定義してください。必要であれば、admin 機能および public 機能を、Data Center Management Network に組み合わせることができます。ネットワークロールの組み合わせを作成する場合は、CLI から展開してください。
- インストール用 UI では、ストレージネットワークは構成されません。ストレージが必要な場合は、csoperate CLI を使用して、Helion CloudSystem の展開後にストレージネットワークを追加してください。**Enterprise Information Library** にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 Command Line Interface Guide』を参照してください。

インストール用 UI の画面上のプロンプトに従ってください。UI のフィールドについては、以下の表で説明します。

表 2 インストール用 UI のフィールド

Control plane hypervisor	説明
vCenter IP address or hostname	ESXi 管理ハイパーバイザーをホストする vCenter アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。 注記: この情報は、UI に自動的に追加されます。
Verify SSL	四角をクリックすると、SSL 検証がオンおよびオフに切り替わります。 <ul style="list-style-type: none">• 緑色の四角: SSL は有効です• 四角なし: SSL は無効です 注記: この情報は、UI に自動的に追加されます。
vCenter username	vCenter にログインするには、ユーザー名を入力します。 注記: この情報は、UI に自動的に追加されます。
vCenter パスワード	vCenter にログインするには、パスワードを入力します。 注記: この情報は、UI に自動的に追加されます。
vCenter datastore	データストアの名前を入力します。 注記: この情報は、UI に自動的に追加されます。
vCenter cluster path	パスを、datacenter/host/cluster_name の形式で入力します。 注記: この情報は、UI に自動的に追加されます。
Cloud Configuration	説明
Hostname Prefix	最大 8 文字のプレフィックスを入力します。
NTP Servers	少なくとも 1 つの NTP サーバーを構成する必要があります。複数の NTP サーバーの IP アドレスは、カンマで区切って追加します。 重要: 展開を開始する前に、管理ハイパーバイザーと NTP サーバーを同期させてください。

表 2 インストール用 UI のフィールド (続き)

Control plane hypervisor	説明
Stack Account Password	<p>stack アカウントを使用して仮想アプライアンスにログインするために必要なパスワードを入力します。テキストを表示して、入力したパスワードが正しいことを確認するには、目のアイコンをクリックします。</p> <p>重要: このパスワードは、英数字およびオプションの特殊文字 ~!@#\$\$%^*()_+={}[];,:.~?/を使用した、12~128 文字の複雑なパスワードでなければなりません。少なくとも大文字を 1 文字、小文字を 1 文字、および 0~9 の数字を 1 文字含めてください。</p>
DNS Servers	<p>(オプション) ホスト名を解決する DNS サーバーを追加します。複数の DNS サーバーの IP アドレスは、カンマで区切って追加します。</p> <p>ホスト名または FQDN でサーバーを使用する場合、または FQDN でロードバランサーを使用する場合は、DNS の IP アドレスを定義する必要があります。</p>
Enable HA	<p>四角をクリックすると、HA がオンおよびオフに切り替わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑色の四角 : HA は有効です ● 四角なし : HA は無効です
Cloud Selection	説明
Foundation	<p>四角をクリックすると、Foundation が追加または削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑色の四角 : Foundation がインストールされます ● 四角なし : Foundation はインストールされません
Enterprise	<p>四角をクリックすると、Enterprise が追加または削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑色の四角 : Enterprise がインストールされます ● 四角なし : Enterprise はインストールされません
Glance ディスクサイズ	<p>Glance ディスクのサイズを GB で入力します。Glance ディスクのサイズの要件については、Enterprise Information Library にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』を参照してください。</p>
OO Admin Password	<p>12~20 文字の英数字および使用可能な特殊文字 ~!@#\$\$%*_+=!(){}[];,:.~?/ からなるパスワードを入力します。</p> <p>このフィールドは、Enterprise の場合に必要です。ここで設定されたパスワードは、HPE Operations Orchestration ポータル用です。テキストを表示して、入力したパスワードが正しいことを確認するには、目のアイコンをクリックします。</p>
Bond Configuration	説明
Create bond	<p>ボンディングモードと、そのタイプのボンディングをサポートするインターフェイスを定義できます。サポートされているボンディングモードは、virtual-port、ip-hash、srcmac-hash、explicit-order、nic-load (vDS 用) です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボンディング名を入力します。 ● ドロップダウンリストからボンディングモードを選択します。 ● ネットワークにボンディングされているデバイスをチェックします。少なくとも 2 つのデバイスを選択します。
Networking	説明

表 2 インストール用 UI のフィールド (続き)

Control plane hypervisor	説明
Network Routing Configuration	<ul style="list-style-type: none"> • [DVR] : RHEL KVM および HPE Linux コンピュートホストをサポートします。 重要: [DVR] を選択した場合、ESXi コンピュートリソースのインポート、プロビジョニング、およびアクティブ化のすべてのアクションが無効になります。 Helion CloudSystem の展開後にこれらの機能を再度有効にするには、環境を取り壊し、[CVR] オプションで再展開する必要があります。 • [CVR] : ESXi、RHEL KVM、HPE Linux、および Hyper-V コンピュートホストをサポートします。
CONF Network (ネットワークの詳細を表示するには、 [...] 、 [Edit] の順にクリック)	<p>デフォルトでは、CONF ネットワークは [Networking] セクションに追加されます。これらのフィールドは、Helion Lifecycle Management Network (hlm) および PXE ネットワークの両方として機能する、必須の Cloud Configuration Network (CONF) を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タグなしネットワークであるため、Vlan ID は指定しません。 • インターフェイスは、物理インターフェイス名またはボンディングの名前です • CONF は、1つの大きなアドレス範囲を必要とします。展開後に、このアドレス範囲を拡張することはできません。 • CIDR 値を入力します。 例: 10.200.24.0/23 • (オプション) CONF ネットワーク外のルートが必要な場合は、有効なゲートウェイ IP アドレスを入力します。 <p>重要: 既存のコンピュータードまたはインストール予定のコンピュータードの CONF IP アドレスは、CONF 用のこの大きなアドレス範囲の中にある必要があります。</p>
CLM Network (ネットワークの詳細を表示するには、 [...] 、 [Edit] の順にクリック)	<p>デフォルトでは、Cloud Management Network (CLM) は [Networking] セクションに追加されます。これらのフィールドを編集して、すべての Helion CloudSystem 仮想アプライアンスと通信する、必須の内部ネットワークを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VLAN ID] フィールドに、CLM ネットワークで使用する予定の VLAN ID を入力します。 • [Interface] フィールドで、物理インターフェイス名を選択します。ネットワークがボンディングされる場合、ここには物理インターフェイス名の代わりにボンディング名を入力します。 • デフォルトの 192.168.0.0/23 とは異なる値を使用する予定の場合、[CIDR] フィールドで CIDR 値を変更します。 • (オプション) アドレス範囲、ゲートウェイの IP アドレス、またはその両方を指定します。 <p>重要: ゲートウェイの IP アドレスがネットワークで定義されている場合は、このアドレスフィールドを使用して、IP アドレスの範囲を定義してください。ゲートウェイの IP アドレスは、この範囲に入っていない必要があります。</p> <p>アドレス範囲が指定されていない場合、ネットワークは CIDR 全体を消費します。</p>
DCM Network (ネットワークの詳細を表示するには、 [...] 、 [Edit] の順にクリック)	<p>デフォルトでは、Data Center Management Network (DCM) は [Networking] セクションに追加されます。これらのフィールドを編集して、Deployer アプライアンス、Management アプライアンス、Enterprise アプライアンス、Cloud コントローラー、および Network ノードをハー</p>

表 2 インストール用 UI のフィールド (続き)

Control plane hypervisor	説明
	<p>ドウェアおよびハードウェア管理ツールに接続する、必須の admin ネットワークを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • admin ロールと public ロールをこのネットワーク上で組み合わせる場合は、DCM および CAN の両方のネットワークタイプを選択します。 • [VLAN ID] フィールドに、DCM ネットワークで使用する予定の VLAN ID を入力します。 • [Interface] フィールドで、物理インターフェイス名を選択します。ネットワークがボンディングされる場合、ここには物理インターフェイス名の代わりにボンディング名を入力します。 • [Address] フィールドに、DCM ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる IP アドレスのオプションの範囲を入力します。複数の IP アドレス範囲がサポートされています。 <p>例： 192.168.219.100-192.168.219.224</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CIDR] フィールドに、CIDR 値を入力します。 例：192.168.216.0/25 • [Gateway IP] フィールドに、ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 <p>重要： 既存のコンピュータードまたはインストール予定のコンピュータードの DCM IP アドレスは、DCM 用の範囲の外にある必要があります。</p>
<p>CAN Network (ネットワークの詳細を表示するには、[...]、[Edit] の順にクリック)</p>	<p>デフォルトでは、Consumer Access Network (CAN) は [Networking] セクションに追加されます。これらのフィールドを編集して、Helion CloudSystem 仮想アプライアンスのコンソールおよびポータルに接続する、オプションの public ネットワークを定義します。構成に必要ない場合は、CAN を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • admin ロールと public ロールを DCM 上で組み合わせる場合は、このネットワークを UI から削除します。 • [VLAN ID] フィールドに、CAN ネットワークで使用する予定の VLAN ID を入力します。 • [Interface] フィールドで、物理インターフェイス名を選択します。ネットワークがボンディングされる場合、ここには物理インターフェイス名の代わりにボンディング名を入力します。 • [Address] フィールドに、CAN ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる IP アドレスのオプションの範囲を入力します。複数の IP アドレス範囲がサポートされています。 <p>例： 30.30.30.10-30.30.30.16</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CIDR] フィールドに、CIDR 値を入力します。 例：30.30.0.0/29 • [Gateway IP] フィールドに、ネットワークの、オプションのゲートウェイの IP を入力します。 <p>注記： CAN ネットワークを削除して、このネットワークの機能を別のネットワークに組み合わせることができます。CAN の代わりになるネットワークの構成に、ネットワークタイプ "public" を追加します。</p>
<p>Neutron external network ([Create Network] をクリック)</p>	<p>External ネットワークは、自動的に [Networking] セクションに追加されません。このネットワークを構成に追加する場合は、[Create Network] をクリックします。Enterprise のみの展開の場合は、External ネットワークは不要です。</p>

表 2 インストール用 UI のフィールド (続き)

Control plane hypervisor	説明
	<p>csoperate CLI コマンドを使用すると、Helion CloudSystem の展開後に External ネットワークを追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークの名前を入力します。 • [Network types] から、[Neutron external network] を選択します。 • [VLAN ID] フィールドに、External ネットワークで使用する予定の VLAN ID を入力します。 • [Interface] フィールドで、物理インターフェイス名 (interface1) を選択します。 <p>ネットワークがボンディングされる場合、ここには物理インターフェイス名の代わりにボンディング名を入力します。</p> <p>重要: ネットワークの IP アドレスまたは IP アドレスの範囲は入力しないでください。インストール用 UI では、IP アドレスまたは範囲を入力できますが、値を入力すると、インストールで検証エラーが表示されます。</p>
<p>VLAN Data Trunk ([Create Network] をクリック)</p>	<p>VLAN Data Trunk は、自動的に [Networking] セクションに追加されません。</p> <p>重要: Helion CloudSystem Foundation 環境のコンピュータリソースを使用する予定の場合は、構成に VLAN Data Trunk または Tunnel underlay network が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークの名前を入力します。 • [Network types] から、[VLAN underlay network (VUL)] を選択します。 • [Interface] フィールドで、物理インターフェイス名を選択します。VxLAN と VLAN に、同じインターフェイスを使用することはできません。 • Tenant ネットワークをサポートするために使用する予定の、オプションのセグメンテーション ID 範囲を入力します。 <p>例: "866:868"</p> <p>注記: インストール用 UI では、複数のセグメント範囲を入力することはできません。csoperate CLI コマンドを使用すると、展開後に追加することができます。</p> <p>初回の展開時に VLAN Data Trunk を追加しない場合は、csoperate CLI コマンドを使用して、後で追加することができます。</p>
<p>Tunnel underlay network ([Create Network] をクリック)</p>	<p>Tunnel Underlay Network は、自動的に [Networking] セクションに追加されません。</p> <p>重要: Helion CloudSystem Foundation 環境のコンピュータリソースを使用する予定の場合は、構成に VLAN Data Trunk または Tunnel underlay network が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークの名前を入力します。 • [Network types] から、[Tunnel underlay network (TUL)] を選択します。 • [VLAN ID] フィールドに、Tunnel Underlay Network で使用する予定の VLAN ID を入力します。 • [Interface] フィールドで、物理インターフェイス名を選択します。 <p>ネットワークがボンディングされる場合、ここには物理インターフェイス名の代わりにボンディング名を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Addresses] フィールドに、ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる IP アドレスのオプションの範囲を入力します。複数の IP アドレス範囲がサポートされています。 <p>例:</p>

表 2 インストール用 UI のフィールド (続き)

Control plane hypervisor	説明
	<p>192.168.97.100-192.168.103.224</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CIDR] フィールドに、CIDR 値を入力します。 例：192.168.97.0/25 • [Gateway IP] フィールドに、ネットワークの、オプションのゲートウェイの IP アドレスを入力します。 • [Segmentation ID Range] フィールドに、Tenant ネットワークをサポートするために使用するオプションのセグメンテーション ID 範囲を入力します。 例：5000:9000 <p>注記: インストール用 UI では、複数のセグメント範囲を入力することはできません。csoperate CLI コマンドを使用すると、展開後に追加することができます。</p> <p>初回の展開時に Tunnel Underlay Network を追加しない場合は、csoperate CLI コマンドを使用して、後で追加することができます。</p>
Load Balancer	説明
Public	<p>これらのフィールドは、証明書の詳細だけでなく、アプライアンスポータルおよび管理コンソールへの public アクセス用のエンドポイントを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VIP] フィールドに、Consumer Access Network (CAN) の IP アドレスの範囲を入力します。 <p>注記: internal ネットワークロールと public ネットワークロールを Data Center Management Network 上で組み合わせた場合は、1 つ目の IP アドレスが internal VIP 用に予約されます。public VIP と admin VIP が固有の IP アドレスであることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オプションの完全修飾ドメイン名を入力します。このエンドポイントは、Consumer Access Network からサービスにアクセスするための、public FQDN です。このフィールドが空白の場合、[VIP] フィールドで指定された IP アドレスが、エンドポイントとして使用されます。 • オプションの、証明書を管理する管理者の電子メールアドレスを入力します。 • お客様固有の証明書を使用する予定の場合は、[Certificate] ボックスに証明書のテキストをペーストします。 <p>証明書ファイル は、/home/stack/helion/my_cloud/config/tls/certs/に保存されます。</p> <p>注記: [certificate] フィールドを空のままにすると、Helion CloudSystem が自己署名証明書を生成します。</p>
Admin	<p>これらのフィールドは、証明書の詳細だけでなく、アプライアンスポータルおよび管理コンソールへの管理者アクセス用のエンドポイントを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VIP] フィールドに、Data Center Management Network (DCM) の IP アドレスの範囲を入力します。 <p>注記: internal ネットワークロールと public ネットワークロールを Data Center Management Network 上で組み合わせた場合は、1 つ目の IP アドレスが internal VIP 用に予約されます。public VIP と admin VIP が固有の IP アドレスであることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オプションの完全修飾ドメイン名を入力します。このエンドポイントは、Data Center Management Network からサービスにアクセスするための、public FQDN です。このフィールドが空白の場合、[VIP] フィールドで指定された IP アドレスが、エンドポイントとして使用されます。

表 2 インストール用 UI のフィールド (続き)

Control plane hypervisor	説明
	<ul style="list-style-type: none"> オプションの、証明書を管理する管理者の電子メールアドレスを入力します。 お客様固有の証明書を使用する予定の場合は、[Certificate] ボックスに証明書のテキストをペーストします。 <p>証明書ファイル は、/home/stack/helion/my_cloud/config/tls/certs/に保存されます。</p> <p>注記: [certificate] フィールドを空のままにすると、Helion CloudSystem が自己署名証明書を生成します。</p>

展開の開始

必要なすべての情報を UI フィールドに追加したら、**[Deploy Helion CloudSystem]** をクリックします。

展開情報に対して、検証が自動的に実行されます。

- すべての情報が正しい場合、展開は自動的に開始されます。
- 検証中に警告が表示された場合、**[View]** をクリックして、警告の詳細を表示します。**[Continue]** をクリックして警告を無視することも、または **[Close]** をクリックして元に戻り、展開の詳細を変更することもできます。フィールドを編集した場合は、**Deploy Helion CloudSystem** を再度クリックする必要があります。
- 検証中にエラーが検出された場合、**[View]** をクリックして、エラーの詳細を表示し、エラーを修正して、再度展開します。
- UI フィールドをデフォルトの設定に戻すには、**[Restore defaults]** ボタンをクリックします。

注記: 展開が成功した後、インストール用 UI に戻ることができます。ただし、フィールドを編集して再度展開すること、またはデフォルト値に戻すことはできません。

構成ファイルおよびログファイルへのアクセス

展開中、**[View Log]** ボタンをクリックすると、UI でログファイルにアクセスすることができます。実際のログファイルは、Deployer 仮想アプライアンスの /var/log/cloudsystem-installer-ui/ ディレクトリに保存されています。

UI は、構成ファイルも生成します。このファイル

は、/opt/stack/service/cloudsystem-installer-ui/venv/model/cs-install-options.yml として保存されます。



ヒント: CLI から新しい展開に対してこのファイルを再使用する場合は、インストール用 UI の実行後、`csdeploy export-config` コマンドを使用してこの構成ファイルをエクスポートしてください。

このコマンドについての詳細は、**Enterprise Information Library** にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 Command Line Interface Guide』を参照してください。

`cs-install-options.yml` ファイルを移動する場合は、移動前に暗号化してください。

7 CLI からのクラウドの展開

Deployer 仮想アプライアンスの展開後、インストール構成ファイルを構成し、csdeploy CLI コマンドを使用して、展開プロセスを起動する必要があります。展開中、Helion CloudSystem 仮想アプライアンスが作成され、ネットワークがアタッチされます。

プロセスの概要：

1. [インストール構成ファイルの構成 \(29 ページ\)](#)
2. [Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開 \(37 ページ\)](#)

Helion CloudSystem のインストール構成ファイル

インストール構成ファイルには、管理ハイパーバイザーおよびクラウドネットワークインフラストラクチャのすべての特徴が含まれます。

Deployer 仮想アプライアンスの/etc/csdeploy/examples ディレクトリには、設定済みの構成ファイルがいくつかあります。

📌 **ヒント:** サンプルファイルを開くと、このファイルには、vCenter の設定および CONF ネットワークの設定がすでに書き込まれています。これらの値は、cs-setup-esx.yml ファイルから取得されています。

作成するクラウド環境に最も近いサンプル構成ファイルを選択してください。以降の手順で、この構成ファイルを編集します。

⚠️ **重要:** インストール手順では、明記されていない限り、Deployer 仮想アプライアンスにあるその他の.yml ファイルは編集しないでください。.yml 入力モデルを変更すると、構成が同期しなくなることがあります。

- **cs-install-options-ESX_Hyper-V-hlinux-RHEL-Vlan-CVR-VSA-3PAR-vmdb-swift.yml**

このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。

- 管理ネットワーク：CONF、DCM、CLM、CAN、EXT
- コンピュートリソース：ESXi、Hyper-V、HPE Linux、RHEL KVM
- ルーティング：CVR
- データネットワーク：VLAN Data Trunk
- ストレージネットワーク：iSCSI、OBS、OBP

- **cs-install-options-Enterprise-Only.yml**

このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。

- 管理ネットワーク：CONF、DCM、CLM、CAN、EXT

- **cs-install-options-RHEL-hlinux-Vxlan-DVR-VSA-3PAR.yml**

このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。

- 管理ネットワーク：CONF、DCM、CLM、CAN、EXT
- コンピュートリソース：HPE Linux、RHEL KVM
- ルーティング：DVR
- データネットワーク：Tunnel Underlay Network

- ストレージネットワーク：iSCSI
- **cs-install-options-ccp-only.yml**
このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。
 - 管理ネットワーク：CONF、DCM、CLM、CAN、EXT
 - データネットワーク：Tunnel Underlay Network および VLAN Data Trunk
- **cs-install-options-hlinux-RHEL-Vlan+Vxlan-CVR-Ceph.yml**
このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。
 - 管理ネットワーク：CONF、DCM、CLM、CAN、EXT
 - コンピュートリソース：HPE Linux、RHEL KVM
 - ルーティング：CVR
 - データネットワーク：Tunnel Underlay Network および VLAN Data Trunk
 - ストレージネットワーク：OSDI、OSDC
- **cs-install-options-hlinux-RHEL-Vlan-CVR-VSA-3PAR.yml**
このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。
 - 管理ネットワーク：CONF、DCM、CLM、CAN、EXT
 - コンピュートリソース：HPE Linux、RHEL KVM
 - ルーティング：CVR
 - データネットワーク：VLAN Data Trunk
 - ストレージネットワーク：iSCSI
- **cs-install-options-poc.yml**
このサンプル構成ファイルは、以下のものをサポートしています。
 - 管理ネットワーク：CONF、DCM（internal ロール、admin ロール、および public ロール）、EXT
 - データネットワーク：Tunnel Underlay Network および VLAN Data Trunk

インストール構成ファイルの構成

- ① **重要:** 構成ファイルの作業を行う前に、ネットワークの定義およびサポートされているボンディング構成について理解してください。

構成内には、hlm、admin、および internal のネットワークタイプを定義する必要があります。ネットワークを組み合わせる場合は、**Enterprise Information Library** にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 ネットワークプランニングガイド』で定義されている、ネットワークの特徴を参照してください。

手順 8 インストール構成ファイルの構成

1. stack 認証情報を使用して、Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
デフォルトの stack 認証情報は、stack/stack です。これらの認証情報は、後でインストール構成ファイルで変更します。
2. examples ディレクトリに移動します。

```
cd /etc/csdeploy/examples
```

- クラウドの要件に最も近いサンプルファイルを開きます。

例

```
vi cs-install-options-ESX_Hyper-V-hlinux-RHEL-Vlan-CVR-VSA-3PAR-vmdk-swift.yml
```

- 構成ファイルのコピーを作成し、/etc/csdeploy ディレクトリに cs-install-options.yml として保存します。
- このファイルに 640 などの限定された権限を追加し、このファイルに追加される機密データを保護します。
- 以下のクラウド要件で、構成ファイルを変更します。

表 3 インストール構成ファイルのフィールド

構成フィールド	説明
host-prefix	最大 8 文字のプレフィックスを入力します。
enable-ha	<ul style="list-style-type: none">• True : HA は有効です• False : HA は有効ではありません
enable-dvr	<ul style="list-style-type: none">• True : DVR が使用されます DVR では、RHEL KVM および HPE Linux コンピュートホストだけがサポートされています。 重要: DVR を選択した場合、ESXi コンピュートリソースのインポート、プロビジョニング、およびアクティブ化のすべてのアクションが無効になります。Helion CloudSystem の展開後にこれらの機能を再度有効にするには、環境を取り壊し、CVR オプションで再展開する必要があります。• False : CVR が使用されます CVR では、ESXi、RHEL KVM、HPE Linux、および Hyper-V コンピュートホストがサポートされています。
dns-settings: nameservers: - ip-address-1 - ip-address-2	(オプション) ホスト名を解決する DNS サーバーを追加します。サーバーを追加するには、"- ip-address-1" に 1 つ目の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。2 つ目の DNS サーバーが必要な場合は、この処理を繰り返します。 ホスト名または FQDN でサーバーを使用する場合、または FQDN でロードバランサーを使用する場合は、DNS の IP アドレスを定義する必要があります。
ntp-servers: -	少なくとも 1 つの NTP サーバーを構成する必要があります。サーバーを追加するには、ダッシュの後ろに IP アドレスを入力します。ホスト名がネームサーバーで解決可能な場合に、オプションでホスト名を追加できます。 例: - 10.254.72.64 重要: 展開を開始する前に、管理ハイパーバイザーと NTP サーバーを同期させる必要があります。
appliance-sizings	各タイプの Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの仮想 CPU およびメモリの要件です。このファイルには、最小の要件が設定されます。 <ul style="list-style-type: none">• MANAGEMENT-ROLE 4 vCPU、16 GB メモリ• MONITORING-ROLE 4 vCPU、16 GB メモリ• DB-RABBIT-ROLE 4 vCPU、16 GB メモリ

表 3 インストール構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> CONTROLLER-ROLE 4 vCPU、16 GB メモリ NETWORK-ROLE 4 vCPU、8 GB メモリ ENTERPRISE-ROLE 8 vCPU、32 GB メモリ
appliance-ssh-password:	<p>stack アカウントを使用して仮想アプライアンスにログインするために必要なパスワードを入力します。</p> <p>このパスワードは、英数字およびオプションの特殊文字 ~!@#\$%^&()_+={} ;,:.?/ を使用した、12~128 文字の複雑なパスワードでなければなりません。少なくとも大文字を 1 文字、小文字を 1 文字、および 0~9 の数字を 1 文字含めてください。</p> <p>パスワードに特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。</p>
type:	ESXi 管理ハイパーバイザーを使用していることを示す esx を入力します。
vcenter-hostname:	vCenter アプライアンスの IP アドレスまたは FQDN を入力します。ホスト名に特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。
vcenter-verify-ssl:	<p>True : セキュア接続用に、vCenter に証明書がインストールされている。</p> <p>False : vCenter に証明書はインストールされていない。</p>
vcenter-username:	vCenter アプライアンスのユーザー名を入力します。ユーザー名に特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。
vcenter-password:	vCenter アプライアンスのパスワードを入力します。パスワードに特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。
vcenter-cluster-path:	<p>パスを、以下の形式で入力します。</p> <p><datacenter_name>/host/<cluster_name></p>
vcenter-datastore:	<p>データストアの名前を入力します。</p> <p>例: SanDisk:env23-mgmt</p> <p>データストア名に特殊文字を使用する場合は、値を一重引用符で囲みます。</p>
bonds: bond0: devices: -- vmnic1 -- vmnic2 mode: virtual-port bond1: devices: -- vmnic3 -- vmnic4 mode: nic-load	<p>ボンディング/チーミングモードと、そのタイプのボンディングをサポートするインターフェイスを定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> bondx フィールド (bond0、bond1、bond2) には、ボンディング名を入力します。 ネットワークにボンディングされているインターフェイスをリストします。 <p>ボンディングまたはチーミングされた NIC を使用する予定の場合、ネットワークの iface フィールドの物理インターフェイス名を、ボンディング名で置き換えます。</p>
ネットワーク構成	

表 3 インストール構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
<pre>--name: CONF types: - hlm members: - cidr: addresses: - iface: gateway-ip:</pre>	<p>このネットワークは、Helion Lifecycle Management Network (hlm) および PXE ネットワークの両方として機能する、必須の Cloud Configuration Network です。</p> <ul style="list-style-type: none"> タグなしネットワークであるため、vlanid は 0 でなければなりません。 CIDR 値を入力します。 例：10.200.24.0/23 CONF には、アドレスの範囲を指定する必要があります。CONF ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる IP アドレスの、広い 1 つの範囲を入力します。この範囲には、Deployer 仮想アプライアンスの IP アドレスが含まれている必要があります。 iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。 (オプション) CONF ネットワーク外のルートが必要な場合は、有効なゲートウェイ IP アドレスを入力します。 <p>重要: 既存のコンピュータノードまたはインストール予定のコンピュータノードの CONF IP アドレスは、CONF 用のこの範囲の中にある必要があります。</p>
<pre>--name: DCM types: - admin members: - vlanid: cidr: addresses: - gateway-ip: iface:</pre>	<p>このセクションは、Deployer アプライアンス、Management アプライアンス、Enterprise アプライアンス、Cloud コントローラー、および Network ノードをハードウェアおよびハードウェア管理ツールに接続する、必須の admin ネットワークを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、DCM ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例：192.168.216.0/24 DCM ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる個別の IP アドレスのリストまたは IP アドレスの範囲を入力します。 例: 192.168.219.100-192.168.219.224 ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。 <p>重要: 既存のコンピュータノードまたはインストール予定のコンピュータノードの DCM IP アドレスは、DCM 用の範囲の外にある必要があります。</p>
<pre>--name: CLM types: - internal members: - vlanid: cidr: iface:</pre>	<p>このセクションは、すべての Helion CloudSystem 仮想アプライアンスと通信する、必須の internal ネットワークを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、CLM ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例：192.168.0.0/23 (オプション) CLM ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる個別の IP アドレスのリストまたは IP アドレスの範囲を入力します。 例: 192.168.28.xx-192.168.28.xx

表 3 インストール構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。 (オプション) ゲートウェイの IP アドレスを指定します。 <p>重要: ゲートウェイの IP アドレスがネットワークで定義されている場合は、このアドレスフィールドを使用して、IP アドレスの範囲を定義してください。ゲートウェイの IP アドレスは、この範囲に入っていない必要があります。</p> <p>アドレス範囲が指定されていない場合、ネットワークは CIDR 全体を消費します。</p>
<pre>--name: CAN types: - public members: - vlanid: cidr: addresses: - iface:</pre>	<p>これらのフィールドは、オプションの Consumer Access Network (CAN) を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、CAN ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例: 30.30.0.0/28 CAN ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる個別の IP のリストまたは IP アドレスの範囲を入力します。 例: 30.30.30.2-30.30.30.12 iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。
<pre>--name: External types: - external members: - vlanid: iface:</pre>	<p>これらのフィールドは、External ネットワークを定義します。External ネットワークが必要となるのは、Helion CloudSystem Foundation をクラウドに含める場合 だけです。構成に必要でない場合は、External ネットワークをコメントアウトすることができます。</p> <p>csoperate CLI コマンドを使用すると、Helion CloudSystem の展開後に External ネットワークを追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、External ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。
<pre>--name: CloudVxLAN types: - tul members: - vlanid: cidr: addresses: - gateway-ip: iface: range:</pre>	<p>これらのフィールドは、Tunnel Underlay Network を定義します。</p> <p>重要: Helion CloudSystem Foundation 環境のコンピュータリソースを使用する予定の場合は、構成に VLAN Data Trunk または Tunnel Underlay Network が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、Tunnel Underlay Network で使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例: 192.168.97.0/25 EXT ネットワーク上の仮想アプライアンスに割り当てられる個別の IP のリストまたは IP アドレスの範囲を入力します。 例: 192.168.97.100-192.168.103.224 オプションの、ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。

表 3 インストール構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 使用する範囲を定義します。 例：5000:9000
--name: CloudVLAN types: - vul members: - iface: range:	これらのフィールドは、VLAN Data Trunk を定義します。 重要: Helion CloudSystem Foundation 環境のコンピュータリソースを使用する予定の場合は、構成に VLAN Data Trunk または Tunnel Underlay Network が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> iface は、物理インターフェイス名です。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。 使用する範囲を定義します。 例："866:868, 901:915"
ストレージネットワークの詳細	
--name: iSCSI types: - bls members: - vlanid: cidr: iface:	HPE StoreVirtual VSA または HPE 3PAR ブロックストレージを使用する予定の場合は、iSCSI ネットワークの構成詳細を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、iSCSI ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例：192.168.50.0/24 物理インターフェイス名を入力します。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。
--name: OBS types: - obs members: - vlanid: cidr: iface:	OpenStack Swift オブジェクトストレージをサポートするには、2つのネットワークのうちの1つが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、OBS ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例：192.168.40.0/25 物理インターフェイス名を入力します。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。
--name: OBP types: - obp members: - vlanid: cidr: iface:	OpenStack Swift オブジェクトストレージをサポートするには、2つのネットワークのうちの1つが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、OBP ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例：192.168.50.0/25 物理インターフェイス名を入力します。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。
--name: OSDI types: - osdi members: - vlanid: cidr: iface:	OpenStack Ceph ブロックおよびオブジェクトストレージをサポートするには、2つのネットワークのうちの1つが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> VLAN ID を、OSDI ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 CIDR 値を入力します。 例：192.168.30.0/24 物理インターフェイス名を入力します。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。

表 3 インストール構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
<pre>--name: OSDC types: - osdc members: - vlanid: cidr: iface:</pre>	<p>OpenStack Ceph ブロックおよびオブジェクトストレージをサポートするには、2つのネットワークのうちの1つが必要です。</p> <p>重要: KVM コンピュートノードに Ceph ストレージを使用する予定の場合は、展開中に構成ファイルに OSDC Network を定義するか、展開後に <code>csoperate</code> CLI で OSDC Network を定義してください。OSDC Network は、コンピュートノードをアクティブ化する前に定義する必要があります。このネットワークを定義する前にコンピュートノードをアクティブ化すると、コンピュートノードはこのネットワークにアクセスすることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLAN ID を、OSDC ネットワークで使用する予定の VLAN ID で変更します。 • CIDR 値を入力します。 例: 192.168.40.0/24 • 物理インターフェイス名を入力します。 ボンディングを使用する場合は、iface はボンディング名です。
ロードバランサーの詳細	
<pre>vrid:</pre>	<p>オプションの <code>vrid</code> (Virtual Router Identifier) は、1~253の整数でなければなりません。値を指定した場合、クラウドを構成するときに、その次の2つの数値も使用されます。たとえば、<code>vrid</code> フィールドに7を入力すると、7、8、9が使用されます。</p>
<pre>Public settings</pre>	<p>これらのフィールドは、証明書の詳細だけではなく、アプライアンスポータルおよび管理コンソールへの <code>public</code> アクセス用のエンドポイントを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • vip フィールドには、Consumer Access Network、または <code>public</code> アクセスを提供するように構成されているネットワークのIPアドレスの範囲を入力します。 注記: <code>internal</code> ネットワークロールと <code>public</code> ネットワークロールを1つのネットワーク上で組み合わせる場合、範囲の1つ目のIPアドレスは使用しないでください。1つ目のIPアドレスは、<code>internal</code> VIP 用に予約されます。 • certificate: フィールドが空白のままの場合、Helion CloudSystem は、<code>cs-public-cert</code> という名前の自己署名証明書を生成します。このフィールドに証明書名が入力された場合は、<code>/home/stack/helion/my_cloud/config/tls/certs/</code> に保存されている、ユーザー指定の証明書と一致する必要があります。 • certificate-email フィールドには、オプションの、証明書を管理する管理者の電子メールアドレスを入力します。 • fqdn フィールドには、オプションの完全修飾ドメイン名を入力します。このエンドポイントは、Consumer Access Network からサービスにアクセスするための、<code>public</code> FQDN です。このフィールドが空白の場合、エンドポイントにはIPアドレスが使用されます。 注記: FQDN を使用する場合は、この FQDN/VIP のエントリーを含む DNS がインストールされている必要があります。この情報は、展開の開始前に存在する必要があります。
<pre>Admin settings</pre>	<p>これらのフィールドは、証明書の詳細だけではなく、アプライアンスポータルおよび管理コンソールへの管理者アクセス用のエンドポイントを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • vip フィールドには、Data Center Management Network、または <code>admin</code> アクセスを提供するように構成されているネットワークのIPアドレスの範囲を入力します。

表 3 インストール構成ファイルのフィールド (続き)

構成フィールド	説明
	<p>注記: internal ネットワークロールと admin ネットワークロールを1つのネットワーク上で組み合わせる場合、範囲の1つ目の IP アドレスは使用しないでください。1つ目の IP アドレスは、internal VIP 用に予約されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • certificate: フィールドが空白のままの場合、Helion CloudSystem は、cs-admin-cert という名前の自己署名証明書を生成します。このフィールドに証明書名が入力された場合は、/home/stack/helion/my_cloud/config/tls/certs/ に保存されている、ユーザー指定の証明書と一致する必要があります。 • certificate-email フィールドには、証明書を管理する管理者の電子メールアドレスを入力します。 • fqdn フィールドには、オプションの完全修飾ドメイン名を入力します。このエンドポイントは、Data Center Management Network からサービスにアクセスするための、public FQDN です。このフィールドが空白の場合、エンドポイントには IP アドレスが使用されます。 <p>注記: FQDN を使用する場合は、この FQDN/VIP のエントリーを含む DNS がインストールされている必要があります。この情報は、展開の開始前に存在する必要があります。</p>
glance-disk-size	Glance ディスクのサイズを GB で入力します。Glance ディスクのサイズの要件については、 Enterprise Information Library にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』を参照してください。
oo-admin-password	<p>12~20 文字の英数字および使用可能な特殊文字 ~!@#%*_-+= (){}[];,:.^.^?/ からなるパスワードを入力します。このフィールドは、Enterprise の場合に必要です。これは、HPE Operations Orchestration ポータルへのアクセスに必要なパスワードです。</p> <p>注記: パスワードに特殊文字を使用する場合は、その文字を一重引用符で囲んでください。</p>

7. インストール構成ファイルを保存します。
8. 構成ファイルを抽出し、テキストエディターで変更した場合は、YAML を YAML Lint にペーストして、構造を検証します。YAML Lint からペーストしたものを、構成ファイルに戻さないでください。検証用にだけ使用してください。

YAML Lint を参照してください。

9. このファイルを、/etc/csdeploy ディレクトリに保存します。

インストール構成ファイルの検証

Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開前に、構成ファイルの整合性を検証することができます。

手順 9 Helion CloudSystem のインストール構成ファイルの検証

1. 構成ファイルが、パス/etc/csdeploy/cs-install-options.yml に保存されていることを確認します。
2. インストール構成ファイルに定義されている stack 認証情報を使用して、Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
3. 次の検証コマンドを実行します。

```
csdeploy validate --config /etc/csdeploy/cs-install-options.yml --add-foundation --add-enterprise
```

注記: Helion CloudSystem Enterprise だけをインストールする場合は、コマンドから `--add-foundation` を取り除いてください。

Helion CloudSystem Foundation だけをインストールする場合は、コマンドから `--add-enterprise` を取り除いてください。

4. エラーをすべて取り除きます。

警告が原因で展開アクションが完了しないことはありません。

注記: 検証でエラー"Encountered a parsing error"が返された場合は、エラーで示されている、インストール構成ファイルのセクションで、誤って削除または編集されている要素をチェックしてください。エラーを修正し、`csdeploy` を再度実行してください。

Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開

必要条件

- インストール構成ファイルが検証され、すべてのエラーが解決されていること。
[インストール構成ファイルの検証 \(36 ページ\)](#) を参照してください。
- Octavia ロードバランサーを使用する場合は、すでにインストールされていること。
[Octavia ロードバランサーのインストール \(49 ページ\)](#) を参照してください。

手順 10 Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開

❗ **重要:** 明記されている場合以外は、この手順のコマンドを `root` で実行しないでください。

1. 作成した構成ファイル (`cs-install-options.yml`) を参照する、`csdeploy` を実行します。

- **Foundation だけのインストール**

```
csdeploy start --config /etc/csdeploy/cs-install-options.yml --add-foundation 2>&1 | tee /home/stack/csdeploy-foundation.log
```

- **Enterprise だけのインストール**

```
csdeploy start --config /etc/csdeploy/cs-install-options.yml --add-enterprise 2>&1 | tee /home/stack/csdeploy-enterprise.log
```

- **Foundation と Enterprise のインストール**

```
csdeploy start --config /etc/csdeploy/cs-install-options.yml --add-foundation --add-enterprise 2>&1 | tee /home/stack/csdeploy-foundent.log
```

2. PLAY RECAP メッセージに、「Installation Completed Successfully!」というメッセージがある `[summary]` セクションが示されていることを確認します。

注記: インストール時間は、Helion CloudSystem の展開に使用するハードウェアのタイプによって異なります。このメッセージが表示されるまでに数時間かかることもあります。

3. ネットワークの構成を vCenter で確認します。

図 3 Helion CloudSystem の展開後の vCenter での VSS のサンプル

View: vSphere Standard Switch vSphere Distributed Switch

Networking

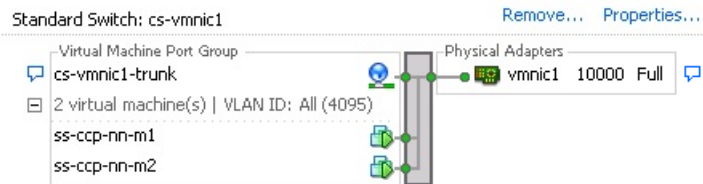
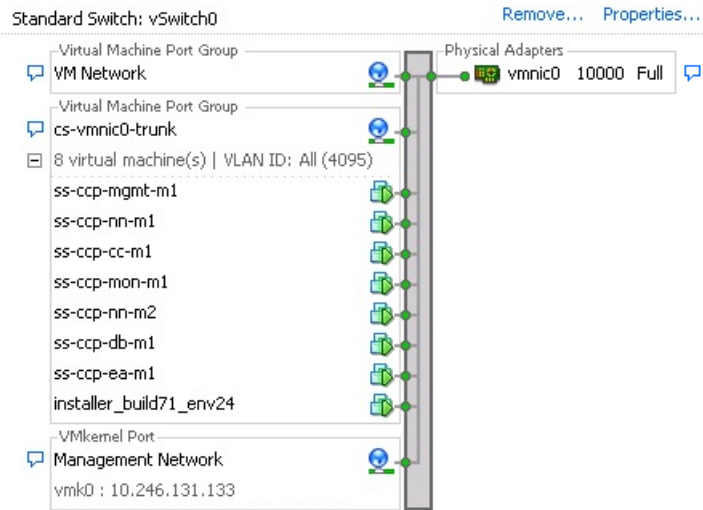
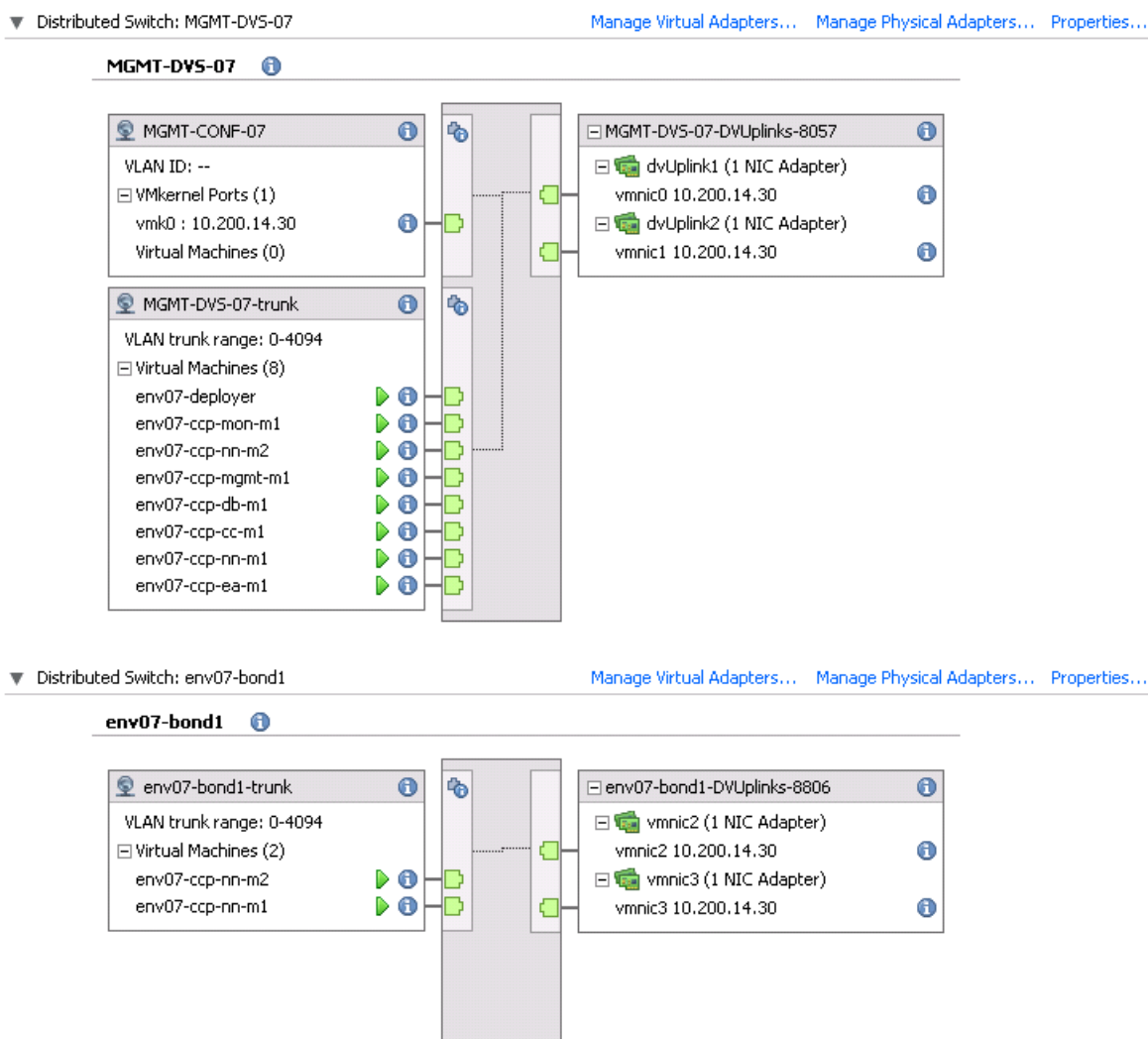


図 4 Helion CloudSystem の展開後の vCenter での VDS のサンプル



仮想アプライアンスを展開した後に、Enterprise を Helion CloudSystem に追加する場合は、[Foundation のみの展開への Enterprise の追加 \(52 ページ\)](#) を参照してください。

この展開が失敗した場合は、[展開失敗後のエラーの解決およびクリーンアップ \(41 ページ\)](#) を参照してください。

アフィニティルールの変更

Helion CloudSystem は、すべての DRS ルールを、インストール時に作成します。この DRS ルールは、展開後に変更することができます。

vSphere Client からこのルールを変更するには、**[管理クラスター]→[設定の編集]→[vSphere DRS]→[ルール]**を選択します。

vSphere Web Client からこのルールを変更するには、**[管理クラスター]→[管理タブ]→[設定タブ]→[構成]→[VM/Host Rules]**を選択します。

8 展開後の Helion CloudSystem インストール用 UI のシャットダウン

Helion CloudSystem を正常に展開した後、インストール用 UI をシャットダウンすることは重要です。

手順 11 インストール用 UI のシャットダウン

1. stack 認証情報を使用して、Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
2. インストールサービスをシャットダウンします。

```
sudo systemctl stop cloudsystem-installer-ui
```

3. サービスを永続的に無効にします。

```
sudo systemctl disable cloudsystem-installer-ui
```

サービスのログは、`/var/log/cloudsystem-installer-ui/service.log` ディレクトリで利用できます。このログには、パスワードは含まれていません。セキュリティ上、このログは削除してください。

9 展開失敗後のエラーの解決およびクリーンアップ

展開エラーの解決

Helion CloudSystem の展開中にエラーが発生した場合、`csdeploy job` コマンドを使用して、エラーの詳細を見つけてください。

手順 12 障害が発生したすべての展開ジョブおよびタスクの表示

1. `stack` 認証情報を使用して、Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
2. すべての `csdeploy` のジョブのリストを要求します。

```
csdeploy job
```
3. `csdeploy` のジョブ ID を見つけ、障害が発生したすべてのジョブのリストを要求します。

```
csdeploy job --id <ID_number>|grep Failed
```
4. 障害が発生したタスク ID を見つけ、タスクの詳細リストを要求します。

```
csdeploy task --id <ID_number>
```
5. 展開エラーを解決します。

展開失敗後の環境のリセット

展開がどの時点で失敗しても、環境をリセットして元の状態に戻し、展開を再度行うことができます。

手順 13 展開失敗後の環境のリセット

1. vCenter で、すべての Helion CloudSystem 仮想マシンを削除します。
2. 展開時に作成したポートグループおよびスイッチを削除します。
3. 展開時に作成した DRS ルールを削除します。
4. インストールを再試行します。

10 Helion CloudSystem 仮想アプライアンスへのアクセス

Helion CloudSystem 仮想アプライアンス上でホストされているポータルおよびユーザーインターフェイスにアクセスするには、各 UI の URL とログイン認証情報を使用します。

各 URL には、ポータルおよびユーザーインターフェイスへの admin および public アクセス用の VIP アドレスが含まれています。

ポータルの admin および public アクセス用の VIP アドレスの調査

HA 構成および非 HA 構成のどちらにも、DCM および CAN ネットワーク用の VIP アドレスがあります。

VIP アドレスは、インストールが成功した後、PLAY RECAP メッセージの **[Summary]** セクションに表示されます。VIP アドレスは、インストールログで見つけることもできます。

アプライアンスポータル

アプライアンス仮想マシン

アプライアンス仮想マシンにアクセスするには、仮想マシンに SSH で接続します。

認証情報：

- デフォルトのユーザー名：stack
- パスワード：（展開中に構成ファイルの `appliance-ssh-password` フィールドで定義）

管理アプライアンス上のオペレーションコンソール

オペレーションコンソールには、以下の方法でアクセスします。

- Data Center Management Network (admin) から：`https://DCM-VIP:9095`
- Consumer Access Network (public) から：`https://CAN-VIP:9095`

認証情報：

- ユーザー名：admin
- パスワード：（以下のコマンドを使用して、Deployer アプライアンスから取得）
`sudo grep -r OS_PASSWORD ~/keystone.osrc`

管理アプライアンス上の Logging Dashboard (Kibana)

Logging Dashboard には、以下の方法でアクセスします。

- オペレーションコンソールから：**[Menu]**→**[General]**+**[Logging]**
- Data Center Management Network (admin) から：`https://DCM-VIP:5601`
- Consumer Access Network (public) から：`https://CAN-VIP:5601`

認証情報：

- ユーザー名：kibana
- パスワード：（以下のコマンドを使用して、Deployer アプライアンスから取得）
`sudo grep -r logging_kibana_password ~/scratch/ansible/next/hos/ansible/group_vars/`

管理アプライアンス上の HA プロキシ

HA プロキシは、環境に対する高可用性をサポートするために、`keepalived` ロードバランス構成とともに動作します。HA プロキシは、管理アプライアンス上でホストされます。

HA プロキシには、Data Center Management Network 上の IP アドレスでアクセスします。

- 1 つ目の管理アプライアンスから：`http://MA1-DCM-IP:1993`
- 2 つ目の管理アプライアンスから：`http://MA2-DCM-IP:1993`
- 3 つ目の管理アプライアンスから：`http://MA3-DCM-IP:1993`

認証情報：

- ユーザー名：`admin`
- パスワード：（以下のコマンドを使用して、管理アプライアンスから取得）
`sudo grep -r auth /etc/haproxy/haproxy.cfg`

クラウドコントローラーアプライアンス上の OpenStack ユーザーポータル

OpenStack ユーザーポータルには、以下の方法でアクセスします。

- 管理者は、Data Center Management Network (`admin`) から OpenStack ユーザーポータルにアクセス：`https://DCM-VIP`
- クラウドユーザーは、Consumer Access Network (`public`) から OpenStack ユーザーポータルにアクセス：`https://CAN-VIP`

認証情報：

- ドメイン：デフォルト
- ユーザー名：`admin`
- パスワード：（以下のコマンドを使用して、Deployer アプライアンスから取得）
`sudo grep -r OS_PASSWORD ~/keystone.osrc`

Enterprise アプライアンス上の HPE CSA、Marketplace ポータル、および HPE OO

- ❗ **重要:** ロードバランサーを VIP アドレスではなく、FQDN で構成している場合、Enterprise アプライアンス上のポータルにアクセスする前に、サービスエンドポイントを変更してください。「[Helion CloudSystem Enterprise アプライアンスの、FQDN によるサービスエンドポイントの変更](#)」(54 ページ)を参照してください。

HPE CSA ポータルには、以下の方法でアクセスします。

- Data Center Management Network (`admin`) から：`https://DCM-VIP:8444/csa`
- Consumer Access Network (`public`) から：`https://CAN-VIP:8444`

認証情報：

- ユーザー名：`admin`
- パスワード：`cloud`

Marketplace ポータルには、以下の方法でアクセスします。

- Consumer Access Network (`public`) から：`https://CAN-VIP:8089`

注記: `https://DCM-VIP:8089` から Marketplace ポータルにアクセスしようとする
と、自動的に Consumer Access Network 上の `public` エンドポイントにリダイレクトされ
ます。

認証情報：

- ユーザー名：consumer
- パスワード：cloud

HPE Operations Orchestration には、以下の方法でアクセスします。

- Data Center Management Network (admin) から：https://DCM-VIP:9091
- Consumer Access Network (public) から：https://CAN-VIP:9091

認証情報：

- ユーザー名：administrator
- パスワード：（インストール用 UI で設定されたか、またはcs-install-options.yml ファイルのoo-admin-password フィールドで設定されたパスワード）

Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの識別

Helion CloudSystem 仮想アプライアンスのメンテナンスまたはトラブルシューティングを行うには、VM 名およびアプライアンス名を使用します。また、各種のネットワーク上でアプライアンスに IP アドレスが割り当てられる方法を知っておくことも重要です。

Deployer アプライアンス

アプライアンス名：Deployer

VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-c0-m1-<network>

表 4 Deployer への IP アドレスの割り当て

アプライアンス名	CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
Deployer	IP-01	IP-01	IP-02	—	—

管理アプライアンス

- アプライアンス名：Management-m1
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-mgmt-m1-<network>
- アプライアンス名：Management-m2
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-mgmt-m2-<network>
- アプライアンス名：Management-m3
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-mgmt-m3-<network>

表 5 管理アプライアンスへの IP アドレスの割り当て

アプライアンス名	CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
Management-m1	IP-02	IP-02	IP-03	IP-01	IP-01
Management-m2	IP-03	IP-03	IP-04	IP-02	IP-02
Management-m3	IP-04	IP-04	IP-05	IP-03	IP-03

- ① **重要：** 管理アプライアンスをホストしている仮想マシン上でメンテナンスを実行する場合は、必ず **Management-m1** が最後にシャットダウンされ、最初に再起動されるノードになるようにしてください。

監視アプライアンス

- アプライアンス名：Monitoring-m1
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-mon-m1-<network>
- アプライアンス名：Monitoring-m2
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-mon-m2-<network>
- アプライアンス名：Monitoring-m3
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-mon-m3-<network>

表 6 監視アプライアンスへの IP アドレスの割り当て

アプライアンス名	CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
Monitoring-m1	IP-05	IP-05	IP-06	—	—
Monitoring-m2	IP-06	IP-06	IP-07	—	—
Monitoring-m3	IP-07	IP-07	IP-08	—	—

- ① **重要:** 監視アプライアンスをホストしている仮想マシン上でメンテナンスを実行する場合は、必ず **Monitoring-m1** が最後にシャットダウンされ、最初に再起動されるノードになるようにしてください。

データベースアプライアンス

- アプライアンス名：Database-m1
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-db-m1-<network>
- アプライアンス名：Database-m2
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-db-m2-<network>
- アプライアンス名：Database-m3
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-db-m3-<network>

表 7 データベースアプライアンスへの IP アドレスの割り当て

アプライアンス名	CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
Database-m1	IP-08	IP-08	IP-09	—	—
Database-m2	IP-09	IP-09	IP-10	—	—
Database-m3	IP-10	IP-10	IP-11	—	—

- ① **重要:** データベースアプライアンスをホストしている仮想マシン上でメンテナンスを実行する場合は、必ず **Database-m1** が最後にシャットダウンされ、最初に再起動されるノードになるようにしてください。

Foundation アプライアンス

- アプライアンス名：CloudController-m1
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-cc-m1-<network>
- アプライアンス名：CloudController-m2
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-cc-m2-<network>

- アプライアンス名：CloudController-m3
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-cc-m3-<network>
- アプライアンス名：NetworkNode-m1
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-nn-m1-<network>
- アプライアンス名：NetworkNode-m2
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-nn-m2-<network>
- アプライアンス名：NetworkNode-m3
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-nn-m3-<network>

表 8 Foundation アプライアンスへの IP アドレスの割り当て

アプライアンス名	CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
CloudController-m1	IP-11	IP-11	IP-12	—	IP-04
CloudController-m2	IP-12	IP-12	IP-13	—	IP-05
CloudController-m3	IP-13	IP-13	IP-14	—	IP-06
NetworkNode-m1	IP-14	IP-14	IP-15	—	—
NetworkNode-m2	IP-15	IP-15	IP-16	—	—
NetworkNode-m3	IP-16	IP-16	IP-17	—	—



重要: クラウドコントローラーをホストしている仮想マシン上でメンテナンスを実行する場合は、必ず **CloudController-m1** が最後にシャットダウンされ、最初に再起動されるノードになるようにしてください。

ネットワークノードをホストしている仮想マシン上でメンテナンスを実行する場合は、必ず **NetworkNode-m1** が最後にシャットダウンされ、最初に再起動されるノードになるようにしてください。

Enterprise アプライアンス

- アプライアンス名：Enterprise-m1
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-ea-m1-<network>
- アプライアンス名：Enterprise-m2
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-ea-m2-<network>
- アプライアンス名：Enterprise-m3
VM 名：<cloud.host-prefix>-ccp-ea-m3-<network>

表 9 Enterprise アプライアンスへの IP アドレスの割り当て

アプライアンス名	CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
Enterprise-m1	IP-17	IP-17	IP-17	IP-04	—
Enterprise-m2	IP-18	IP-18	IP-18	IP-05	—
Enterprise-m3	IP-19	IP-19	IP-19	IP-06	—

- ① **重要:** Enterprise アプライアンスをホストしている仮想マシン上でメンテナンスを実行する場合は、必ず **Enterprise-m1** が最後にシャットダウンされ、最初に再起動されるノードになるようにしてください。

VIP アドレス

VIP アドレスは、展開中に指定されます。

表 10 VIP アドレスの割り当て

CONF の割り当て	DCM の割り当て	CLM の割り当て	CAN の割り当て	iSCSI の割り当て
—	IP-20	IP-01	IP-04	—

詳細情報

Enterprise Information Library にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 管理者ガイド』の「**Helion CloudSystem アプライアンスのシャットダウンと再起動**」の章を参照してください。

A 付録

標準 vSwitch から分散型 vSwitch への移行

デフォルトでは、vCenter は標準 vSwitch (VSS) を使用します。分散型 vSwitch (DVS) を使用したい場合は、標準 vSwitch を、分散型 vSwitch に移行する必要があります。

Helion CloudSystem に必要な一部の VMware 機能では、追加の VMware ライセンスが必要になる場合があります。ライセンス要件については、VMware のドキュメントを参照してください。

vSwitch の移行について詳しくは、[**VMware Knowledge Base Solution**](#) を参照してください。

必要条件

- クラスタ内の 1 つの ESXi ホストが、vmnic0/vmk0 以外の NIC を使用して vCenter Management Network に接続すること。
- vCenter が、vmnic0 以外の NIC を使用して vCenter Management Network に接続するように展開および構成されていること。

手順 14 VSS の DVS への移行

構成内の任意の標準スイッチを分散型スイッチに移行するには、以下の手順を使用します。

1. 新しい分散型 vSwitch を作成します。
分散型 vSwitch には一意の名前を付ける必要があります。
2. 作成された **dvPortGroup** を変更して、vCenter Management Network の VLAN ID を使用できるようにします。
標準から分散型の仮想スイッチに移行する前に、作成した dvPortGroup に VLAN ID が追加されていることを確認します。
3. ホストを追加します。
 - a. クラスタの一部となるホストを選択します。
 - b. vmk0 を持つ vmnic を選択します (通常は vSwitch0)。
 - c. 手順 2 で構成した dvPortGroup に vmk0 を移行します。

注記: VM ネットワークを移行しないでください。

- d. 変更を確認し、**[完了]** を選択します。
4. 構成が新しい dvPortGroup を使用するように、vCenter 仮想マシンを手動で編集します。
 5. 標準 vSwitch を削除します。
 6. HPE OneView または Virtual Connect を使用して、NIC の構成が Helion CloudSystem のトポロジと一致するようにします。

B Octavia ロードバランサーのインストール

Octavia は、可用性の高いコントロールプレーンおよびデータプレーンをサポートする、ソフトウェアロードバランシングソリューションです。デフォルトでは、KEEPALIVED ロードバランサーが、管理アプライアンス上にインストールされています。Octavia ロードバランサーのインストールはオプションです。

- ❗ **重要:** HPE Helion OpenStack Load Balancer as a Service (LBaaS) v2 にも含まれている、このバージョンの Octavia は、**本番環境での使用はお勧めしません**。本番環境で LBaaS v2 を使用する場合は、F5、A10、Radware、または Citrix などの、外付けハードウェアロードバランサーを使用してください。

Octavia についての詳細は、以下の情報を参照してください。

- 『[Helion OpenStack 3.0](#)』にある、**Octavia の情報**
- [OpenStack Octavia](#)

Octavia ロードバランサーのインストール

残りの Helion CloudSystem 仮想アプライアンスを起動する `csdeploy` コマンドを実行する前に、Deployer 仮想アプライアンス上で以下の手順を実行する必要があります。

必要条件

- プロバイダーネットワークに割り当てることができる VLAN ID があること。このネットワークは、`cs-install-options.yml` インストール構成ファイルで定義されている VLAN Data Trunk 範囲外でなければなりません。このネットワークは、Data Center Management Network (admin) にルーティングできる必要があります。
- KVM ベアメタルホストにアクセスできる環境であること (ESXi コンピュートクラスターは現在サポートされていません)。

手順 15 Octavia ロードバランサーのインストール

1. Deployer 仮想アプライアンスにログオンします。
2. `neutron_config.yml` を変更します。
 - a. `/home/stack/helion/my_cloud/definition/data/neutron/neutron_config.yml` を開きます。
 - b. `'configuration-data:'` からファイルの最後まで行のコメントを外します。
 - c. 以下の値を変更し、使用されるプロバイダーネットワークを定義します。
`neutron_config.yml` の設定については、[HOS 3.0 のドキュメント](#) を参照してください。

表 11 `neutron_config.yml` ファイルのフィールド

データセクション	予期される値
<code>neutron_provider_networks:</code> <code>- name:</code>	OCTAVIA-MGM-NET
<code>provider:</code> <code>- network_type: vlan</code> <code>physical_network:</code> <code>segmentation_id:</code> <code>cidr:</code> <code>no_gateway:</code> <code>enable_dhcp:</code> <code>allocation_pools:</code> <code>- start:</code> <code>end:</code> <code>host_routes:</code>	<ul style="list-style-type: none">• <code>network_type</code> は vlan です。• <code>physical_network</code> は、<code>cs-install-options.yml</code> ファイルに定義されている VLAN Data Trunk (vul) の、小文字の名前です。• <code>segmentation_id</code> は、プロバイダーネットワークに割り当てられた VLAN ID です。• <code>CIDR</code> は、プロバイダーネットワークに割り当てられた CIDR です。• <code>allocation_pools</code> は、ネットワークの IP の範囲の最初および最後を定義します。

表 11 neutron_config.yml ファイルのフィールド (続き)

データセクション	予期される値
- destination: nexthop:	<ul style="list-style-type: none"> host_routes destination は、cs-install-options.yml に定義されている DCM ネットワークの CIDR です。 host_routes nexthop は、DCM ネットワークにルーティングされるプロバイダーネットワークゲートウェイです。

例 :

```
product:
  version: 2
configuration-data:
  - name: NEUTRON-CONFIG-CP1
    services:
      - neutron
    data:
      neutron_provider_networks:
        - name: OCTAVIA-MGMT-NET
          provider:
            - network_type: vlan
              physical_network: vlan
              segmentation_id: 969
            cidr: 10.246.165.128/25
            no_gateway: true
            enable_dhcp: true
            allocation_pools:
              - start: 10.246.165.135
                end: 10.246.165.200
            host_routes:
              - destination: 10.246.163.128/25
                nexthop: 10.246.165.129
```

d. ファイルを保存して閉じます。

3. control_plane_base.yml ファイルを変更します。

- /home/stack/helion/my_cloud/add_ons/clusters/control_plane_base.yml ファイルを開きます。
- 以下のconfiguration-data:行のコメントを外します。

例 :

```
configuration-data:
  - OCTAVIA-CONFIG-CP1
  - NEUTRON-CONFIG-CP1
```

c. ファイルを保存して閉じます。

4. control_plane_foundation.yml ファイルを変更します。

- /home/stack/helion/my_cloud/add_ons/clusters/control_plane_foundation.yml ファイルを開きます。
- CONTROLLER-ROLE の 2 つの Octavia サービスから service-components までのすべてのコメントを外します。

例 :

```
...
server-role: CONTROLLER-ROLE
service-components:
  ...
  - octavia-api
  - octavia-health-manager
```

c. ファイルを保存して閉じます。

5. `csdeploy` を実行します。
[Helion CloudSystem 仮想アプライアンスの展開 \(37 ページ\)](#) を参照してください。
6. RHEL KVM コンピュートホストをアクティブ化します。
Enterprise Information Library にある『HPE Helion CloudSystem 10.0 管理者ガイド』の「**HPE Linux または RHEL KVM コンピュートホストのアクティブ化**」を参照してください。
7. Octavia のイメージを、リリースキットにある **HPE Helion CloudSystem Tools** パッケージから抽出し、Deployer 仮想アプライアンスの `/var/tmp` フォルダにコピーします。
8. `playbook` を実行して、`amphora` のイメージをロードします。

```
cd ~/scratch/ansible/next/hos/ansible/
ansible-playbook -i hosts/verb_hosts -e service_package=/var/tmp/octavia-amphora-haproxy-guest-image.tgz
service-guest-image.yml | tee /home/stack/amphora.log
```

9. Octavia ロードバランサーを作成します。
 - a. Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
 - b. Octavia が `amphora` のイメージのプロビジョニングに使用するネットワークおよびサブネットを作成します。
 - c. Octavia ロードバランサーを作成します。

```
neutron lbaas-loadbalancer-create --name your-lb-name --provider
octavia your-subnet-name
```

10. ロードバランサーが正しく作成されたことを確認します。

```
neutron lbaas-loadbalancer-list
```

状態が **[ACTIVE]** に変わります。

例：

```
neutron lbaas-loadbalancer-list
```

```
+-----+-----+-----+-----+
| id                                     | name       | vip_address |
+-----+-----+-----+-----+
| provisioning_status | provider |
+-----+-----+-----+-----+
| d5b9f03e-698b-4643-bcde-1357c50f9d55 | mydemo1b  | 192.168.1.1 | ACTIVE |
|                                     |           |             |       |
+-----+-----+-----+-----+
```

C Foundation のみの展開への Enterprise の追加

仮想アプライアンスの展開後に Helion CloudSystem に Enterprise を追加する場合は、この付録の手順を使用してください。

- [Helion CloudSystem Enterprise の準備 \(19 ページ\)](#)
- [Helion CloudSystem Foundation の展開後の Enterprise アプライアンスのインストール \(52 ページ\)](#)
- [プロバイダーの追加 \(52 ページ\)](#)

手順 16 Helion CloudSystem Foundation の展開後の Enterprise アプライアンスのインストール

1. 展開中に定義された stack 認証情報を使用して、Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
2. `cs-install-options.yml` ファイルを開きます。
 - Helion CloudSystem を CLI から展開した場合、このファイルは `パス/etc/csdeploy/cs-install-options.yml` にあります。
 - Helion CloudSystem をインストール用 UI から展開した場合、このファイルは `パス/opt/stack/service/cloudsystem-installer-ui/venv/model/cs_install_options.yml` にあります。
3. 構成ファイルの **appliance-sizings** セクションにある **ENTERPRISE-ROLE** の vCPU およびメモリの値を変更します。
 - Helion CloudSystem を CLI から展開した場合、**ENTERPRISE-ROLE** の値を確認し、必要であれば変更します。
 - Helion CloudSystem を UI から展開した場合、**ENTERPRISE-ROLE** を **appliance-sizings** セクションの最後のエントリとして追加し、値を変更します。

```
#ENTERPRISE-ROLE:
#  vcpus: 8
#  memory: 32
```
4. **add-ons** セクションの `oo-admin-password` を変更します。
 - Helion CloudSystem を CLI から展開した場合、パスワードを `oo-admin-password:` フィールドに追加します。
 - Helion CloudSystem を UI から展開した場合、**Enterprise** セクションに `oo-admin-password` を追加します。

```
# enterprise section required with --add-enterprise
enterprise:
  oo-admin-password: '<password>'
```
5. ファイルを保存します。
6. `csdeploy` を実行します。
 - Helion CloudSystem を CLI から展開した場合は、以下のコマンドを実行します。

```
csdeploy start --config /etc/csdeploy/examples/cs-install-options.yml
--add-enterprise 2>&1 | tee /home/stack/csdeploy-enterprise.log
```
 - Helion CloudSystem をインストール用 UI から展開した場合は、以下のコマンドを実行します。

```
csdeploy start --config /opt/stack/service/cloudsystem-installer-ui/venv/model/cs_install_options.yml
--add-enterprise 2>&1 | tee /home/stack/csdeploy-enterprise.log
```
7. 展開が成功したことを示すメッセージが表示されたことを確認します。

手順 17 プロバイダーの追加

Enterprise のインストール後、プロバイダーを追加する必要があります。

1. プロバイダーを、**HPE Live Network** からダウンロードします。

2. プロバイダーを使用する作業については、**Enterprise Information Library** にある HPE CSA ドキュメントの一部の、『HPE Cloud Service Automation Content Pack User Guide』を参照してください。

D Helion CloudSystem Enterprise アプライアンスの、FQDN によるサービスエンドポイントの変更

ロードバランサーをVIPアドレスではなく、FQDNで構成した場合は、すべてのEnterpriseアプライアンス上のpublicエンドポイントを変更する必要があります。この変更を行わないと、Enterpriseアプライアンスがホストするポータルおよびコンソールにアクセスできなくなります。

手順 18 Enterprise アプライアンスのVIPアドレスの、FQDN への置き換え

1. Deployer 仮想アプライアンスにログインします。
2. Deployer 仮想アプライアンスから、1つ目のEnterpriseアプライアンスにSSHで接続します。
3. root 認証情報を使用して、`/usr/local/hpe/csa/jboss-as/welcome-content/index.html` ファイルを編集用を開きます。
4. public VIP を public FQDN に置き換えます。

例：

```
https://servername-public.domain.local:8444/csa/
```

5. root 認証情報を使用して、`/usr/local/hpe/csa/jboss-as/standalone/deployments/mpp.war/index.html` ファイルを編集用を開きます。
6. public VIP を public FQDN に置き換えます。

例：

```
https://servername-public.domain.local:8089/
```

7. root 認証情報を使用して、`/usr/local/hpe/csa/portal/node_modules/mpp-server/conf/mpp.json` ファイルを編集用を開きます。
8. 次のフィールドを変更します。
 - a. “idmProvider” を検索します。
 - b. “url” で、public VIP を public FQDN に置き換えます。
 - c. “returnUrl” で、public VIP を public FQDN に置き換えます。

例：

```
"idmProvider": {  
  "url": "https://servername-public.domain.local:8444",  
  "returnUrl": "https://servername-public.domain.local:8089",
```

9. root 認証情報を使用して、`/usr/local/hpe/csa/jboss-as/standalone/deployments/csa.war/dashboard/config.json` ファイルを編集用を開きます。
10. 次のフィールドを変更します。
 - a. “marketplace” を検索します。
 - b. “url” で、public VIP を public FQDN に置き換えます。

例：

```
"url": "https://servername-public.domain.local:8089"
```

11. root 認証情報を使用して、`/usr/local/hpe/csa/jboss-as/standalone/deployments/csa.war/WEB-INF/classes/csa.properties` ファイルを編集用を開きます。
 - a. “OOS_URL” を検索します。
 - b. “OOS_URL” で、public VIP を public FQDN に置き換えます。

例：

```
"OOS_URL": "https://servername-public.domain.local:9091"
```

12. HA 構成の場合は、上記の手順を、クラスター内の各 Enterprise アプライアンスごとに繰り返します。
13. HPE CSA および Marketplace ポータルサービスを、すべての Enterprise アプライアンス上で再起動します。
 - a. Deployer 仮想アプライアンスから、サービスを停止させます。

```
csoperate service stop enterprise-csa cs10cloud-ccp-enterprise
```
 - b. サービスを起動します。

```
csoperate service start enterprise-csa cs10cloud-ccp-enterprise
```

E サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスを受けるには、Web サイト「Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide」に移動します。
<http://www.hpe.com/assistance>
- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトに移動します。
<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

ソフトウェアテクニカルサポートおよびアップデートサービス

ご購入いただいた Helion CloudSystem 製品には、1 年間、24 時間年中無休のソフトウェアテクニカルサポートおよびアップデートサービスが含まれています。また、HPE OneView に付属の HPE Helion CloudSystem 製品、および Converged System とともにご注文された HPE Helion CloudSystem 製品には、3 年間、24 時間年中無休のソフトウェアテクニカルサポートおよびアップデートサービスが含まれています。このサービスは、ソフトウェアの実装および操作に関する問題を解決するための支援情報についての HPE テクニカルリソースへのアクセスを提供します。

このサービスはさらにソフトウェアアップデートおよびリファレンスマニュアルへのアクセスを提供します。HPE から、電子形式のデータとして入手することも、物理的なメディアとして入手することもできます。（電子ライセンスの使用権を購入した場合、電子アップデートのみが利用できます。）

このサービスで、Helion CloudSystem のお客様は、ソフトウェアアップデートの通知と入手だけでなく効率の良い問題解決も受けることができます。詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/services/insight-ja>

ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスへの登録

「License Entitlement Certificate」を持っている場合は、オンラインでのライセンス証明書/キーの発行手続きの際に、このサービスに登録されます。

ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスの使用方法

登録後、サービスの窓口の電話番号と SAID（Service Agreement Identifier）を含むサービス契約書がメールで送付されます。テクニカルサポートに連絡する場合は、SAID が必要です。SAID を使用すると、HPE サポートセンター（www.hpe.com/support/hpesc）を利用して、契約内容をオンラインで確認することができます。

コンサルティングおよびインストールサービス

HPE Helion CloudSystem インフラストラクチャの展開および運用が成功するように、HPE はさまざまな種類のコンサルティングサービス、インストールサービス、およびサポートサービスを提供しています。詳細は、<https://www.hpe.com/us/en/services/consulting/cloud.html> を参照してください。

HPE Datacenter Care for Cloud

HPE Helion Professional Services ポートフォリオの一部である HPE Datacenter Care for HPE Cloud は、お客様の Helion CloudSystem のハードウェアおよびソフトウェアのオペレーティング環境をサポートする、柔軟な関係を提供します。詳細は、<http://www.hpe.com/services/dccloud> を参照してください。

セキュリティ管理

HPE は、そのすべての管理ソフトウェアの品質とセキュリティへのそのアプローチでプロアクティブです。ダウンロード可能な最新のセキュリティアップデートを入手できるように、<http://www.hpe.com/support/e-updates> にサインアップしてください。

ディスカッションへの参加

HPE サポートセンター (www.hpe.com/support/hpesc) には、コミュニティベースの、ユーザーによるフォーラムがあります。このフォーラムでは、HPE 製品について、カスタマーコミュニティでのディスカッションに参加することができます。

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。製品のドキュメントを確認し、推奨されるソフトウェアアップデートの方法を特定します。
 - 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。
 - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[メールニュース配信登録]** ページ：
<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>
 - Software Depot の Web サイト：
<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>
 - ソフトウェアおよびドライバーダウンロードページ：
HPE サポートセンターでは、HPE Helion CloudSystem 製品の最新のソフトウェアおよびドライバーを提供しています。Helion CloudSystem Enterprise のお客様には、その他のコンテンツを HPE Live Network (<https://hpln.hpe.com>) で提供しています。
 - ProLiant リリース用のサポートパック：
最新の SPP は、http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl で入手できます。リリースが利用可能になったときに事前通知を受け取るには、<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja> にサインアップしてください。
 - お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[More Information on Access to Support Materials]** ページに移動します。
<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>
- ① **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
HPE Live Network	https://hpln.hpe.com
カスタマーセルフリペア	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs
Serviceguard Solutions for HP-UX	http://www.hpe.com/info/hpux-serviceguard-docs
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) のストレージ互換性マトリックス	http://www.hpe.com/storage/spock
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers
Hewlett Packard Enterprise の認定リセラーの検索	米国内の場合は、「U.S. partner and store locator」の Web サイトを参照してください。 http://www.hpe.com/support/service_locator 他の地域では、「Contact Hewlett Packard Enterprise」の Web サイトを参照してください。 www.hpe.com/contact
HPE Datacenter Care for Cloud	http://www.hpe.com/services/dccloud

参考ドキュメント

HPE CSA および Operations Orchestration (OO) などの、HP Helion CloudSystem のマニュアルとホワイトペーパーの最新バージョンは、Enterprise Information Library (<http://www.hpe.com/info/CloudSystem/docs>) からダウンロードできます。

HPE Helion CloudSystem のドキュメント

ドキュメント

- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 管理者ガイド』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 Command Line Interface Guide』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 ESXi インストールガイド』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 KVM インストールガイド』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 ネットワークプランニングガイド』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 リリースノート』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 サポートマトリックス』
- 『HPE Helion CloudSystem 10.0 トラブルシューティングガイド』

Helion CloudSystem オペレーションコンソールのオンラインヘルプは、オペレーションコンソールのユーザーインターフェイスのヘルプ制御ボタン（疑問符マークのシンボル）をクリックすると利用できます。

HPE Helion OpenStack のドキュメント

以下の製品に関する情報を含む、Helion OpenStack 情報の最新バージョンは、HPE Helion Documentation (<http://docs.hpcloud.com>) で参照できます。

- HPE Helion OpenStack
- HPE Helion Eucalyptus

HPE Insight Management ドキュメント

HPE Matrix Operating Environment のマニュアル、ホワイトペーパー、および『HPE Insight Management サポートマトリックス』の最新バージョンは、以下のドキュメントも含め、Enterprise Information Library (<http://www.hpe.com/info/matrixoe/docs>) からダウンロードできます。

- 『HPE Matrix Operating Environment リリースノート』
- 『HPE Insight Management サポートマトリックス』
- 『HPE Matrix Operating Environment インフラストラクチャオーケストレーションユーザーガイド』
- 『HPE CloudSystem Matrix インフラストラクチャオーケストレーションを使用したクラウドバースティング』

サードパーティのドキュメント

OpenStack

- **Liberty 版の OpenStack ドキュメント**

一部の例外（インストール情報など）を除き、OpenStack のドキュメント Web サイトでは、必ず最新のリリースストリームの OpenStack ドキュメントが表示されるように設定されています。

- 『Cloud Administrator Guide』
- 『Virtual Machine Image Guide』
- 『API Quick Start』
- 『Admin User Guide』
- 『End User Guide』
- コマンドリファレンス
 - キーストーンコマンド
 - Glance コマンド
 - Neutron コマンド
 - Nova コマンド
 - Cinder コマンド

VMware

- **VMware vSphere のドキュメント**

Microsoft

- **Microsoft Windows Server のドキュメント**
- **Microsoft Hyper-V のドキュメント**

Red Hat

- **Red Hat Enterprise Linux 7 のドキュメント**

HPE 3PAR StoreServ のドキュメント

次のドキュメントを含む最新バージョンの 3PAR StoreServ Storage マニュアルは、Enterprise Information Library (<http://www.hp.com/go/CloudSystem/docs>) の **[Storage]** タブからダウンロードできます。

- 『HPE 3PAR StoreServ Storage Concepts Guide』
- 『HPE 3PAR StoreServ Storage Troubleshooting Guide』

HPE StoreVirtual VSA のドキュメント

次のドキュメントを含む最新バージョンの StoreVirtual VSA Storage マニュアルは、Enterprise Information Library (<http://www.hp.com/go/CloudSystem/docs>) の **[Storage]** タブからダウンロードできます。

- 『HPE StoreVirtual Storage ユーザーガイド』

HPE ProLiant サーバーのドキュメント

- 『HPE Integrated Lights-Out QuickSpecs』には、サポート情報が掲載されています。次に示す QuickSpecs の Web サイトで入手できます。

<http://www.hp.com/go/qs>

- ProLiant のサーバー情報：
 - ProLiant BL BladeSystem サーバー：
<http://www.hpe.com/info/blades-ja>
 - ProLiant DL、ML、および SL サーバー：
<http://www.hpe.com/info/rackservers>

カスタマーセルフリペア

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

デバイスサポートについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>